

かみさまのつくりかた

竹内
介

登場人物一覧

現実世界

鈴木兼俱（かねとも 70歳）…：咲花神社（さきはなじんじや）の宮司。
鈴木兼好（かねよし 30歳）…：兼俱の息子。社会人となったが仕事をやめ神主として戻ってきた。
名取文絵（46歳）…：有名絵本作家。
栗原（35歳）…：アポロ出版の中堅社員。絵本を担当したかったが雑誌を任されている。
多賀城（24歳）…：アポロ出版の若手社員。写真担当。
けん坊（12歳）…：幼い時から咲花神社に来ている小学生
まー坊（12歳）…：けん坊の友達
晴人（12歳）…：都会から引っ越してきた小学六年生。けん坊やまー坊と同じ小学校に通う。
女A…：漫画の絵を書いている
女B…：漫画のシナリオを書いている
女C…：女A、Bの友人
女D…：男Aの彼女
男A…：女Dの彼氏
男B…：小説家志望の青年
男C…：男Bの親友
運送屋 A
運送屋 B

物語世界

あひる…：みにくいアヒルの子の主人公
桃太郎…：桃太郎の主人公
意地悪爺さん…：数々の昔ばなしで活躍する悪役
意地悪婆さん…：数々の昔ばなしで活躍する悪役
赤ずきん…：赤ずきんの主人公
雪女…：雪女の主人公
シンデレラ…：シンデレラの主人公
ウサギ…：数々の昔ばなしで活躍する擬人化されたウサギ
金太郎…：金太郎の主人公
寝太郎…：さんねんねたろうの主人公
貧乏神…：かみさまとして強大な力を持つが、物語世界の嫌われ者。

都会から少し離れた町にある咲花神社（さきはなじんじや）。その境内。夏休みの朝。寂れている様子。神社の宮司である兼俱が近所の子供達に絵本を読み聞かせている。典型的な「はなさかじいさん」。それを遠巻きに雑誌記者、栗原と多賀城の二人が見ている。多賀城はときおり、その光景を写真に撮っている。

兼俱 『枯れ木に花を咲かせましょう、枯れ木に花を咲かせましょう』そう言いながらおじいさんが灰をまくと、風に吹かれた灰が桜の花びらに変わります。それを見て殿さまは大喜び。「これは愉快。お前には褒美をとらせるぞ」「いやいや、お待ちください」褒美と聞いた隣のいじわるじいさん、あわてて灰を持ってきて殿さまのところに行きました。「私のほうがうまく花を咲かせます」そう言つて灰をまきましたが、灰は花びらになるどころかそのまま殿さまの目の中へ。「痛い、痛い、この無礼者！」隣のいじわるじいさん、怒った殿さまにひどい罰を受けけたとき』はい、おしまい

けん坊 ひどい罰って何？

兼俱 なんだろうね

まー坊 切腹でしょ、切腹

兼俱 切腹はかわいそうだな

晴天

あのね、サムライじゃないんだからせいぜい打ち首。この物語の大事なところはそこじゃないだろ。イヌを可愛がつたお爺さんは宝物を掘り当て、いじめたおじいさんはお化けを掘り当てる。イヌが死んで悲しんだお爺さんにはウスから小判、イヌを殺したおじいさんにはウスから汚物。ウスが焼かれて、せめて灰だけでもと引き取つたおじいさんは花を咲かせる。ウスを焼いたおじいさんは罰を受ける。わかる？つまりこれは勧善懲悪の物語。戦隊もので必ず正義が勝つていう構図だね

兼俱、けん坊、まー坊はあつけにとられる

けん坊 お前、あつたまいいな！

晴天 受験生ならこれくらいの読解当たり前だよ。じゃあ、講習会があるから。ありがとうございます

ました

兼俱 どういたしまして。楽しんで頂けましたか？

晴天 はい、気晴らしになりました。でも次はもう少し難しい本がいいですね。大人向けの、役に

立つような

兼俱 考えておきます

晴天は去る。

兼俱 けん坊、講習会ってどこで？

けん坊 知らない。電車に乗って行くって言つてた

兼俱 小学生なのに、偉いんだね

けん坊 晴天の奴、付き合ひ悪いんだよ。ここだつてようやく連れて来れたんだぜ

兼俱 晴天君。昔からいた？

まー坊 ううん、四月に転校してきたんだ。なあ、げんこつ山行こうよ！

けん坊 おう！カンゼンチョーアク！

まー坊 カンゼンチョーアク！（二人で去る）

栗原 電車で何駅か来ただけでこんだけのどかなんだな。少年時代か。多賀城、わかるか？

多賀城 （写真を撮っている）栗原さんの少年時代？

栗原 （軽く頭を小突いて）バカ。井上陽水だ

多賀城 イノウエヨウスイ？

栗原 写真を見開きでドーンと載せて、少年時代を探しに……うーん……

兼好 お待たせしました！

兼俱の息子の兼好が資料を持って現れ、栗原に資料を手渡す。その様子をじっと見守っている兼俱に。

兼好 ちよつと、向こう行つてよ
兼俱 適当なことを言うなよ
兼好 わかつてるって

仕方がなく兼俱は去る。

兼好 こんなものですかね
栗原 ありがとうございます…(資料に目を通しながら) うーん、私達の雑誌はタウン誌だからね…こういう専門的な資料でなく…もつと一般の方が興味を持てるような…例えば十一月に秋祭りがありますよね? 来月号とは時期が合いませんが、そういったもののほうが目に留まると思うんです。ほとんどの読者は、俗物ですから

兼好 …この小冊子はどうですか?
栗原 そうですね、こういうほうが…「目には見えない大切なもの」

栗原は小冊子の文言を読むがピンとこない。

栗原 例えば、可愛いお守りがある、とか、占いが面白いとか…
兼好 わかりました、作ります
多賀城 軽っ!

栗原は多賀城の頭をはたく。

兼好 いや、ほんと参ってるんですよ。これだけ寂れてるのに、父はなんにもしようとしない。なすがまま。このままだと飯の食いあげですよ。駅前でピラをまいたりしてるんですが…「スマートウォーカー」さんが最後の頼りなんです

栗原 これは私からの提案ですが、このピラにも小さく書いてある絵本供養。ここにヒントがないかなと思うんです。どうしてこの神社で絵本供養をするようになったんですか?

兼好 この咲花神社はアメノウヅメという神様を祭っているんです。この神様は御存知ですか?
栗原 いえ、恥ずかしながら
兼好 神話の中でアマテラスという太陽の神様が、弟であるスサノオの暴挙に絶望して天の岩戸

という所に隠れてしまふんです。世界が闇に包まれてしまい、他の神様達はどうやって引きこもってしまったアマテラスを出すことができるのか頭を悩ませます。その時にアメノウヅメは大変愉快な踊りを舞い、それを一目見ようとしたアマテラスが岩戸をあけて世界に光が戻ったんです

なるほど。その話は聞いたことがあります

栗原 踊りで世界を救ったということアメノウヅメは芸能の神様とも言われているんですが、一六七一年、江戸時代の寛文(かんぶん)十年に地本問屋、今で言う出版社の鶴屋蔦衛門(つるやつかえもん)という人が芸能繋がりでも考えたんでしょうか、大量の本と版木(はんぎ)、印刷する型ですね。それをここに奉納したんです。その年の冬、このあたり一帯で大火事が起こりこの神社も、鶴屋さんの家も、辺り一面灰の山。しかし不思議なことに神社に奉納してあった本や版木の中で、昔話に関連したものだけは無事だったんです。残った版木をもとに鶴屋さんは再興し、それ以来、使わなくなつた絵本を奉納する人が後を絶たなくなつたということ…ここにはアメノウヅメに仕える絵本の神様、御眷属がいるんじゃないかって

栗原 なるほど…やはり理由があつて絵本供養をやっているんですね
兼好 でも最近の子供って絵本読まないでしょう?
栗原 そうなんですかね?

多賀城 そうですよ。うちの甥っ子もゲームばかりです。ヒーロー好きだから戦隊物の、写真がいっぱいのつてる本なら持ってますけど

兼好 だから最近、絵本供養のご依頼なんてほとんどありませんよ
栗原 そうか…時代の流れか…ちなみに、今の話は伝説ですよね?

兼好 どういう意味ですか?
栗原 実際にその焼け残つた本がある、とか…
兼好 …ありますよ。実物が

栗原 ほんとですか！それ、見せて頂くことはできますか？
兼好 どうでしょう：いいと思いますが、新米ですから

栗原 新米？

兼好 ああ、私、今年神主になったばかりなんです。脱サラ神主ってわけで

栗原 へえ！

兼好 ちよつと父に聞いてきます

栗原 お願ひします

兼好は去って行く。栗原と多賀城だけになる。

栗原 脱サラかあ：

多賀城 栗原さんが神社好きだって知らなかったです

栗原 はあ？なんで俺が？

多賀城 今日はやる気あるじゃないですか

栗原 俺はいつだってやる気まんまんだよ

多賀城 へえ：

多賀城は適当に風景を撮影する。

栗原 流すなよ！俺だってやる気の出る仕事ならやるんだよ！だいたいどうして俺をタウン誌な
んかにまわすかね！

多賀城 でしょ？だから予想外だったんです。今日も適当に取材して、居酒屋でクダまかれるコース
だと思ってましたから

栗原 お前、よく目の前でズバズバ言えるねえ。これだから

多賀城 ゆとり世代です

栗原 :

多賀城 僕も今日は編集長の文句言う予定でした。「スマートウオーカー」は、M1（エムワン）F
1（エフワン）層向けでしょ？こんな寂れた神社の特集見たからって、今度のデートは神社に
しようって言うと思います？全くの無駄ですよ

栗原 仕方ないだろ、さっきの神主が、編集長の大学時代のクラブの先輩の息子の友達だった？

多賀城 それくらい断れなくて、何が編集長なんですか。ただでさえ部数が減って人員整理だなんて

言われてるのに：

栗原 って、新米が偉そうに言うな。それよりさ、祈ろう。編集長が真っ先に飛ばされるように（拝
殿に向かう）

多賀城 神様がそんなこと聞いてくれますかね

と言いつつ、多賀城も栗原の後を追いかける。

帽子とサングラスをかけ、少し怪しげな恰好で名取が現われる。何もかもに疲れたという雰囲気。

参拝を終えた多賀城と栗原に、名取は話しかける。

名取 ……ここ、咲花神社ですね

栗原 はい、そうですよ

名取 ……

名取は何かを探すかのようにぼーっと立ちつくしている。
兼好が帰ってくる。

兼好

いいみたいですよ。見に行きましようか。ただ、絵本供養で売り出して行くのは：僕はどうか
かなと思うんです。正直、絵本供養に来る方って変な人多いですよ。こう、人生に打ち負か
されました、みたいな…。そんな方がたくさん来られても、逆効果じゃないかと思うんですよ

名取 すみません

兼好 はい？

名取 すみません

兼好 どうされました？

名取 絵本供養に来てしまいました
兼好 あ：よくいらつしやいました！えーっと：すみません、父を呼んできますので、こちらでお
待ち下さい。父さーん、お客さん

兼好は兼俱を呼びに行く。

栗原 多賀城

多賀城 はい？

栗原 あの人の取材できるか？

多賀城 やめて下さいよ！心ここにあらずって感じですよ

栗原 やっぱりそうだよな

兼好が兼俱を連れて帰ってくる。

兼俱 絵本供養のご依頼とお聞きしましたが：

名取 すみません：ご迷惑じゃありませんか？

兼好 ありません、ありません！

兼俱 それで絵本はどちらに？

名取 すみません、階段の下までは台車で持って来たんですが、重くてあがらなくて：一人じゃ無理だなど思って：えっと、だから：少しづつ持って来ます

名取が行こうとしたのを兼俱は止める。

兼俱 兼好、持ってきてあげなさい

兼好 うん

兼好が多賀城もついていく。

名取 ああつ

兼俱 いいんです、いいんです。絵本供養なんてよく御存知でしたね

名取 ビラに書いていました：駅前で、さっきの人が配っていて。すみません

兼俱 何を謝られるんですか？最近のご依頼も少なくて、寂しく思っていたんですよ。その本棚に飾らせて頂くんですが、あの通りガラガラなんです。子供達も楽しみにしているのに

名取 子供：

兼好と多賀城が大きな段ボールを抱えて来る。

兼俱 これはなかなかの量ですね

兼好 全部、普通のご供養でよろしいですか？

名取 他にもあるんですか？

兼好 こちらをどうぞ

兼好はきちんと印刷された料金表を取りだす。

兼俱 なんだそれは？

兼好 料金表だよ。ええっと、絵本供養の料金は二種類ございまして。普通のものは一冊百円で、

名取 特別供養が三万円となっております

特別：？

兼好 はい。普通はその本棚に飾って、秋祭りの時にお焚きあげしておしまいますが、特別供養の場合は、本殿の中で秋祭りを待ち、最後に一冊一冊祝詞を奏上してからお焚きあげさせて頂きます

名取 それは：いいんですか？

兼好 特別ですから、いいんです

名取は、カバンの中から本を取りだす。「みにくいあひるのこ」であるが観客にはわからない。

名取　：お願ひします、特別供養

多賀城　三万円！

栗原　多賀城！

兼好　わかりました。大切に奉納させて頂きます

名取　料金は、今払えばいいですか？

兼好　はい。特別供養が三万円で、こちらがええつと（何冊あるか数える）

兼俱　特別供養のぶんだけで結構ですよ

兼好　父さん！初穂料（はつほりよう）はちやんととらないと！

兼俱　宮司と呼べ。いいんだよ。そもそも特別供養もお気持ちだけだ。三万円なんて誰が決めた？

兼好　今はそういう時代なんだよ。お気持ちだけなんてより、料金書いてるほうが安心するの

名取　すみません、あるだけ払いますから

兼俱　いやいや、なら、段ボール一箱千円ということ

兼好　一箱千円ってみかんじゃないんだから

兼俱　金額じゃなくてお気持ちなんだよ。本当に、気になさらないで下さい

名取　三万円ならありますよ：カード、だめですよね？

兼好　ええ：そうか、カード対応もサービスだな

兼俱　ばかもん。すみません、それでよろしければお納めください：最後にお別れはよろしいです

か？特に、こちらの

名取　結構です

名取はみにくいあひるの子から目をそらす。

兼俱　そうですか：では

兼好　ああ、奉納してくるよ。栗原さん、じゃあ行きましようか、本殿に

栗原　はい！

兼好、栗原、多賀城は本殿に向かう。

兼俱　では、こちらもお祀りしましょうか

兼俱は段ボールの本を一冊一冊丁寧に見ては本棚に移していく。名取も手伝うが、開こうとはしない。

それを機に、物語の世界の桃太郎、雪女、三年寝太郎が現われる。彼らの姿は人の目にはふれない。桃太郎と雪女は兼俱を見ている。寝太郎はすでに寝ている。

雪女　久しぶりですね：

桃太郎　ああ。長く眠っていたようだな。まだ私達は必要とされているのか

雪女　今度は、どんな世界を人間達は見せてくれるのでしょうか：

桃太郎　この人間が、目覚めさせたのか

雪女　そのようすね

桃太郎　何かを抱えているのか：楽しい事ではなさそうだな

雪女　そうですね：

赤ずきんが現われる。

赤ずき　あ、桃太郎さん！久しぶり！ねえねえ、私達何年寝てたの？

桃太郎　さあな：

赤ずき　桃太郎さんでもわからないんだ！どうして？ねえねえ、雪女さんはわかる？

雪女　じきにわかるでしょう：赤ずきん

雪女は赤ずきんをたしなめようとするが、赤ずきんはまくしたてる。

赤ずき あの人誰？兼俱？それか兼俱の子供？

桃太郎 さあな…

赤ずき えー、今日の桃太郎さんわからないことばかり！どうして？どうして？ねえねえ、雪女さん知ってる？

雪女 …

赤ずき うわ、どうして無視するの？ねえ、どうして、どうして？寝太郎はわかる？ねえ、寝太郎はどうして寝てるの？いつ起きるの？え、でも起きたんだよね？でも寝てる。寝太郎は起きたら凄い事するんでしょ？いつ、いつなの？雪女さん、わかる？

雪女はぐつと赤ずきんの首をつかむ。

雪女 だまれ

赤ずき (泣きだして) うわーん、雪女さんがいじめる！どうして、どうして！

赤ずきさんは泣きながら去って行く。桃太郎はそれを見て。

桃太郎 ありがとう

雪女 どういたしまして

金太郎が現われる。

金太郎 赤ずきんちゃん、どうしたんですか？お二方も、今お目覚めですか？

雪女 うん、さつきね。金太郎は？

金太郎 私も目が覚めたばかりなんです。そうかそうか、この本が来たんだな。ありがとうございませう。桃太郎さん、相撲でもとりませんか？

桃太郎 あとでな。今がどういう時代なのか見ておかないと

金太郎 相変わらず真面目ですね。ま、何かあったら教えて下さい

金太郎はシコを踏んだり、一人で相撲の稽古をする。

兼俱 桃太郎、雪女、三年寝太郎…昔話が多いですね。好きなんですか？

名取 はい

兼俱 そうでないところだけ買いませんものね…ひかりちゃんは、どんなお子さんだったんですか？

名取 え？

兼俱 さきほどの絵本に名前が書いていましたので…。絵本供養に来られる理由は二つです。一つは、お子さんが大きくなって必要でなくなつたから。その方達は笑顔でいらつしやる。もう一つの理由で来られる方が、笑顔になることはありません

名取 私…独身です…子供もいません

兼俱 ああ、これは失礼

名取 大人になれなかつたんです。大人になれないまま死んでしまいました。私の子供じゃありません。ボランテアで知り合った子です

兼俱 そうですか…

名取 何年も入院を繰り返してました。でも笑ってました。絵本が大好きで、絵本を読むとものと笑ってました。悲しい話だと目にいっぱい涙を浮かべて…(感極まって) すみません…

兼俱 いえいえ…

名取 すみません、勝手にペラペラ喋り出して

兼俱 どうぞどうぞ、いくらでもお話下さい。お聞かせ下さい

名取 …その子にある時間かれました。私、大人になれるのになつて。それでさっきの特別供養の本をプレゼントしたんです

あひるがひよこひよこことあるいて来る。迷子の雰囲気。外見にも特徴がないので、桃太郎達も物語の世界の人物だとわかっていない。

兼俱 そうですか：時に絵本は何よりも胸に響きますからね。いや、私もここで絵本の読み聞かせをたまにやっていますね。改めて話の奥深さに感心することがあるんです

名取 私も絵本の読み聞かせをやってました。小児病棟で：

兼俱 そうなんですか

名取 本当にいい子だったんです。どうしてあの子が死ななきやならないんですか？どうしてあいつでもそいつでも私でもなく、あの子！神様は残酷です！

兼俱 ……神様が殺したわけじゃないですよ

名取 どうして神様は救ってくれないんですか？

兼俱 できなかつたんでしょう。神様だって泣いているかもしれせん

名取 神様なんて、いませんよ。人間が作り上げた幻です

兼俱 何をおっしゃるうが、神様はいらっしゃいます。あなたがここに絵本を持って来られたんだから

名取 ……

兼俱 誰かがここに来る限り、神様はいらっしゃるんです

名取 ……

雪女 子供が亡くなること…子を持つ私には、その辛さが身にしみてわかります…

桃太郎 昔も今も、苦しみの種類は変わらないのだな…

貧乏神 苦しみを降り注げ！

雪女 うわ、貧乏神！

貧乏神が横切って行く。シンデレラが赤ずきんを連れてくる。

シンデ 赤ずきん、もう泣かないで。あなたのいたずらがすぎたんでしょう？

赤ずき 違うもん。私はわからないから聞いただけだもん

シンデ 雪女さん、ごめんなさい。赤ずきんを許してあげて

赤ずき ねえ、どうして私が悪いの？シンデレラ？ねえ、どうして？

シンデ 謝っておきなさい。大きくなったらわかるから

赤ずき 一つ大きくなるのよ…（仕方なく）ごめんなさい

雪女 大人が話している時は、少し静かにしてね

赤ずき はーい。うわ！ウサギ！

駆けこんできたウサギに赤ずきんが飛びつく。

ウサギ やめろよ。さわるなって！…お前ら気づいてるか？兼好が本殿あげてごちやごちややって

たぞ。特別供養だ

桃太郎 本当か！

赤ずき じゃあ新しいお友達が来るの！ねえ？ねえ！

シンデ しっ！（ささやいて）まだわかりませんわ

金太郎 ウサギさん、相撲をとりませんか？

ウサギ なんで今、相撲なんだよ！それにお前の相手はクマだろ！

金太郎 足柄山（あしがらやま）ではウサギさんとも相撲とりましたよ！

ウサギ ……寝太郎でいいだろ！クマみたいだし

金太郎 起きますかね？

ウサギ 知らねえよ。起こせよ

桃太郎 本殿に本が入るとは…何年ぶりだ

ウサギ さあな。俺達がないだ寝たのが…最後の記憶が一九九七年だな、それでさつき社務所にあった新聞が二〇一二年だから…十五年はたってるな

雪女 それは本当？よく覚えてるわね

ウサギ 俺は、あんた達と違って色んな話に出てるんだよ。頭が良くないと整理しきれねえだろ。こ

いつ(名取)がやったのか…辛気臭いツラしてるな

貧乏神 貧乏！（と叫んで通り過ぎる）

あひる 本殿に本が入ると何が起こるんですか？

雪女 その本にこめられた思いが形となってあらわれる…新しい話なら仲間が増え、もう仲間と

なっている話なら変異が起こる
あひる 変異？

ウサギ 見た目や性格が変わるんだ。今のところ変異を起こした奴がいない、ということとは…新しい話なのか、形になるほどの思いがこめられてなかったのか？

金太郎 ウサギさん、寝太郎さん起きないんですか？

ウサギ ほんとお前はマイペースだな。赤ずきんでいいだろ
赤ずき え、お相撲？やりたい！

金太郎は赤ずきんと相撲を取り始める。

桃太郎 あの人間の思い、軽くはなさそうだぞ

雪女 なら、新しい仲間？

あひる 新しい仲間！

シンデ 素敵な王子様、来てほしいですわ

ウサギ 気を抜くな、味方とは限らねえぞ、例えば…鬼

あひる 鬼！

金太郎と赤ずきん以外の人物は敵が来ないか辺りを見回す。ふと桃太郎が気づく。

桃太郎 …お前は誰だ？

あひる え？

ウサギ うわ！なんだお前、自然に入って来るから気づかなかったぜ！

あひる すみません

雪女 で、誰なの？

あひる 誰でしょう？

ウサギ 新入りか？

赤ずき 新入りさん？ねえ、見て見て

赤ずきんは何回も金太郎を転がす。

赤ずき 私、強い？どうして？どうして？

シンデ 金太郎さんがわざと負けてくれているの。他のお友達を投げ飛ばしちやだめよ

赤ずき わざとなの？

金太郎 いえ、赤ずきんちゃんはなかなかお強いですよ

ウサギ 花相撲ってやつだな

爺さん 何が花相撲だ。八百長だろう

意地悪爺さんと婆さんが現われる。

婆さん 子供相手に手を抜いて、何を期待しているんだか。ロリコンだね

金太郎 失礼な！八百長とは聞こえが悪い。まるで悪いことをしているようだ

爺さん わざと負けるのを八百長って言うんだよ。言われるのが嫌なら本気でやってみるよ

赤ずき 私、いいよ、本気でやっても。えい、えい！

金太郎にぶつかる赤ずきん。金太郎は再び転がる。

金太郎 うわ、本当にお強い。参りました！

赤ずき ほら、わざとじゃないじゃん

爺さん 勝手にやっつけ。けっ、どいつもこいつも

婆さん こいつが持ってきたのかい？もつと寝させてくれよ。絵本供養なんてあこぎな商売、とつと

とやめたらしいのに

ウサギ 特別供養もきたぞ

爺さん はあ？なら誰か来るのか？

雪女 もう来てるわよ

婆さん この子かい？まあ；何の役にも立ちそうにない娘っ子だね
爺さん 色気の一つでもありや、嬉しいけどよ；はあ（絶望する）

あひる すみません。お二人は；どなたですか？他の方々はわかるんですが；
婆さん あー、失礼な新入りだね。私は婆さんだよ

爺さん 俺は爺さんだ

あひる お婆さん、お爺さん？

爺さん 爺さんといえは、なんだ？

あひる はなさかじいさん？

婆さん 隣のほうね

あひる こぶとりじいさん

爺さん それも隣だな

あひる おむすびころりん

婆さん あったあつた。隣のほうね

あひる 猿地蔵

爺さん 猿にバレルほうな。だいたい、猿の歌が面白すぎるんだよ、あんな歌歌われたら笑いたくも

なるよな；つて、お前、詳しいな！

あひる 意地悪じいさん！意地悪ばあさん！

爺さん そう呼ばれる事もあるな

あひる 意外と；普通ですな

爺さん 普通だと悪いのか！こぶつけたらいいのか？

婆さん 包丁でも持とうか？

あひる いや、もつと怖い人だと思っていました

ウサギ まあ、いわゆる必要悪つてやつだな。悪すぎても楽しめないし、いい奴すぎてもやられた時

の爽快感がない
爺さん 俺達がいるから、おまえらは拍手喝さいあびるんだ。覚えとけ！

栗原、多賀城、兼好が帰ってくる。

栗原 宮司さん！感動しました！凄い本がびっしりじゃないですか！

兼俱 見て来られましたか？そんな、たいしたものじゃありませんよ。ただの古本です

栗原 ご謙遜を。あれが全部大火事を乗り切ったんですか？

兼俱 いえ、そこまで古いものは赤本と呼ばれる初期の草双紙（くさぞうし）だけで、ごく一部で

す。大半は江戸時代後期から昭和にかけてのもので；まあ珍しいところでは、大正時代のグリム童話なんかもあります

兼好 絵本、確かに奉納しました。こちらが証明書がわりのお札です

名取 どうも；

栗原 あれは凄いコレクションですよ；軸はあれだな；

兼好 そうですか？

栗原 そうですよ！；；なにか、うまく利用する方法はないかな；ああ、私もお手伝いしますね

兼俱 すみません、一冊一冊見ていると時間がかかってしまつて

多賀城や兼好も加わつて本棚につめはじめる。

栗原 これ、「おおきなはしご」じゃないですか！いい本ですよね？

名取 ；

栗原 すみません、これ出してるアポロ出版つて私が勤めている会社なんです。懐かしいな；

名取 ；

多賀城 もしかして栗原さんのやりたかった仕事つて、絵本？

兼俱 それはいい本なんですか？

兼俱は「おおきなはしご」を栗原から受け取る。

栗原 ええ。雨粒のピンちゃんのはしごを登つて太陽まで行くんです。途中、小さくなつたり氷になつたりススで汚れたりするんですが、勇気を出してどんどん登つて行く。最後は泣けるんで

すよね！

名取
兼俱

『ピンちゃんは雨粒です。高いお空から落ちてきて、地面に落ちたら蒸発してお空に帰って行きます。今日は運悪く、泥のみずたまりに落ちてしまいました。あーあ、葉っぱの上がよくったのにな、とピンちゃんは思いました。みずたまりを抜け出して、緑の草で体をふいていると、目の前にはしごが立っていました。はしごのてっぺんは雲の上で見えません。これは面白そうだ、とピンちゃんのはしごを登り始めました』

名取

やめてください！

兼俱

…？

名取

あ…

栗原

まさか

多賀城

どうしたんですか？

「おおきなはしご」の写真と名取の顔を見比べる。

栗原

この写真！名取先生！そうですよね、名取先生ですよ！

名取

あ…いえ…ああ…

兼好

この本の作者のかた？

栗原

ええ。こんなところでお会いできるとは…

名取

…

栗原

私、アポロ出版の栗原と申します。先生、今日はどうして絵本供養に？

名取

さあ…

栗原

私、本当に先生のファンで、アポロ出版に入ったのもこの「おおきなはしご」があつたから

名取

なんです。最近では新作を書かれていますよ？先生の新作、早く読ませて下さい！

栗原

あきらめて下さい

名取

え…

栗原

書けないんです。絵本を書く意味がわからなくなりました

栗原

先生の絵本は、多くの子供達に夢や勇気を与えているじゃないやありませんか！

名取

明日死ぬかもしれない子供に夢や勇気を与えて何の意味があるんですか？

栗原

…

名取

すみません

栗原

何があつたか存じませんが…先生の作品を待っているのは、私だけではありません

名取

私だって…書きたいですよ。でも書けない…どうしても

あひる

…

兼俱

絵本のことなら、神様に聞いてみてはどうでしょう

名取

え？

兼好

父さん…？

貧乏神

我のことか！

名取

バカにしないで下さい

兼俱

バカになんかしていません。神様に会う事はできなくても、神様の言葉なら、本殿の中にた

兼好

くさんあります。どうぞ、思う存分話してきて下さい

兼俱

本殿の本を見て頂くってこと？

貧乏神

ああ。どうぞ、こちらへ

兼俱

我はここぞぞ！

名取と兼俱は本殿に向かう。

栗原

多賀城、写真！

栗原と多賀城、兼好もあとをおいかける。貧乏神の横を通った多賀城が突然こける。

貧乏神

バカ者！

栗原

何やってんだよ、多賀城

多賀城

すみません！

兼俱は名取を本殿に残すと帰ってくる。

爺さん 神様ねえ！

あひる みなさんは神様なんですか？

爺さん 知るかよ、そんなこと。アメノウヅメの御眷属だってあいつらは言ってるが

ウサギ そのアメノウヅメを見た奴はいない！

貧乏神 私は神だ！

婆さん ああ、貧乏でも一応神だね

桃太郎 福の神はどうした？

貧乏神 消えた！お前には見えないのか！この町に福などない！貧乏のエナジーが渦巻いている。

苦しみ、妬み、恨み、ああ、力がどんどんと集まってくる！

貧乏神は高らかに笑う。

あひる あんなこと言ってますよ！大丈夫ですか！

爺さん 大丈夫だよ。あいつにできるのは、せいぜいツカなくするだけだ。でもま、関わらないほう

がいいぞ。あいつはイカれてるからな

貧乏神 我は神！人間どもの思いが我を呼び覚ます！我を讃えよ！

婆さん 誰が貧乏を讃えるんだよ。ひっこんでろ

爺さん そもそも、俺達はこの神社から外に出られないしな。神様かどうかなんて確かめようがない

貧乏神 例え身動きがとれなくても、貧乏がある限り我が滅びることはない！

あひる じゃあ、みなさんはここで何をされるんですか？

雪女 面白い事聞かぬ。あの人達の思いを感じて、見守るだけよ

貧乏神 面白い！ハハハハハハ！

あひる それだけですか？

雪女 そうよ

赤ずき お相撲したり、お茶したり、他には：

シンデ ダンスもできますわよ

貧乏神 ダンス！ハハハハハ！

婆さん 私は縫物や洗濯、爺さんなら酒、得意なことが違うんだよ。だから新人は貴重なんだ

あひる あの人を助けることはできないんですか？

爺さん はあ？お前何言ってるんだ？

あひる …何かおかしなことを言いました？

婆さん 私らは違う世界に住んでるんだよ

シンデ お爺さん、お婆さん。夢があつていいじゃありませんか。魔法使いが現われて、奇跡を起こ

してくれるかもしれないわ

あひる 奇跡？

貧乏神 ハハハハハ！あー、腹が痛い！

爺さん 姿は見えない、言葉は通じない。そもそもあいつの悩みがお前にわかるのか？

あひる いえ：

爺さん それでも助けたらというお前の頭が理解できないわ

シンデ もういいじゃありませんか

赤ずき そうだよ、赤ずきん、意地悪嫌いだもん。そろそろお話聞かせてよ

あひる え？

ウサギ 頭の中に、物語があるだろ？新入りは、それをここで話すんだ。歓迎会みたいなもんだな！

赤ずき ねえ、聞かせて、聞かせて！あなたはどんな世界から来たの？きつと優しいお話だよね？

シンデ 静かに。落ち着いて話せないでしょ

あひる あの…ありません

一同 ええっ！

あひる たぶん私、あなた方とは違うんです

ウサギ 違うって、どういうことだ？

あひる 物語がないんです：

雪女 あなたは、さっきの人が持つてきた物語でしょ？
あひる どんな物語を持つてきたんですか？私：誰なんですか？
一同 ……

名取達が帰ってくる。あひるは親ガモを追いかけける子ガモのように名取をおいかける。

あひる あの、私は誰ですか？ねえ、誰なんですか？

桃太郎がそれを止める。

桃太郎 やめろ

あひる 教えて下さい！聞こえないんですか！

桃太郎 俺たちの思いが伝わることはない…

兼俱 いかがですか？お話できましたか？

名取 昔話が大好きでした。子供の頃買ってもらった絵本はボロボロになるまで読み返しました。夢や、勇気や、たくさんのものを拾いながら。それに比べて私の書くものは…

兼俱

昔話を書いた人は、夢を与えようとか勇気を与えようとか。そんなことを思ってたんですけど、語り継がれていく中で、たくさんの人が思いを言葉にこめて紡いでいったんじゃないんですか？その結果、何百年も愛される物語ができました

名取 ……

兼俱 意味のない物語などありません。そう思うのは、名取さんが気づかれていないだけです

名取 私に、書けとおっしゃるんですか

兼俱 それはあなたが決めることです。書くことも、書かないことも、意味のある行動です。ただ、

御自身の作品を無意味なものだと思わないであげて下さい

名取 私には、書くことしかないんです…でも、書けない。もう夢とか希望とか、むなしいだけです！

兼俱 夢や希望から一度離れてみてはいかがですか？

名取 ……

兼俱 くだらないものでもいいじゃないですか

名取 くだらない…？

兼俱 たとえば笑い話ですか…すみません、素人考えで

名取 心にないことを書けるほど、私、器用じゃありません…

名取はぺこりと一礼する。

名取 お話ありがとうございます。本、よろしく願います

栗原 名取先生！

栗原は慌てて懐から名刺を取り出す。

栗原 今日のお写真は使わせて頂いてよろしいですか？

名取 お好きにどうぞ

栗原 ありがとうございます。何か困ったことがありましたら、ぜひ私のところまでご連絡下さい。

先生のお力になりたいんです

名取 力になるってなんでしょう？あまり好きな言葉じゃありません

名取は帰って行く。

栗原 ……

兼好 栗原さん

栗原 作家さんの力になる神社ってどうでしょう？

兼好 え？

栗原 記事のことです。名取先生のお写真を使って、絵本を愛する人達を中心にうったえかけるよ
うな

兼好　でもそれじゃ、人が集まらないんじゃないですか？

栗原　プロでなくても、書くことを趣味にする人はたくさんいます。それに絵本だけでなく、小説でも、詩でも、俳句でもいい。そういった方々を勇気づけられるような場所だとして記事を作ってもよろしいですか？

兼好　うーん…

兼俱　そうして下さい

兼好　父さん

兼俱　宮司だ。お前は、栗原さんに頼んだんだろう？なら、任せなさい。お前が考えた薄っぺらい案より、よほどいいと私は思うよ

兼好　そう？なら…お願いします

栗原　わかりました。じゃあもう少し細かくつめていきましょうか

兼好　はい！

兼好と栗原、多賀城、兼俱は話を続ける。

桃太郎　この神社も変わろうとしているのか…

爺さん　絵本供養さえなけりや、寝っぱなしですむのにな

あひるは一人、ポツンと立っている。

あひる　私は、どんな物語から生まれたの？

暗転

二場

一ヶ月が過ぎた。咲花神社の記事が掲載された「スマートウオーカー」が発売され、神社は活気が始めている。訪れる参拝客達に意地悪爺さんと婆さんがケチをつけている。男A、女Cが座っている。桃太郎、あひる、赤ずきはそれを見ている。寝太郎は寝ている。女A、Bが神社に到着する。

女B　着いたー！結構遠かったね

女A　うん…神秘的な雰囲気がある

爺さん　気のせいだ

女B　早くお参りに行こう！

女A、Bは拝殿に向かう。

女C　（心配して）大丈夫？

男A　ああ

女C　妹さん、治るといいね

男A　うん。ありがとな。お金のことも、今日も…わざわざ来てくれて

女C　当たり前だよ。大事な人の妹だもん。手術、絶対成功するよ

婆さん　ここは病院じゃないよ

女C　ほら、元気出して！

男A、女Cは拝殿に向かう。

男B、Cが現われる。

男C　きたきたきたきたー！

男B　お前、俺より気合い入ってるな

男C　当たり前だって。次の小説大賞で入選しなかったら小説やめるんだろ？

男B　ああ。全ての時間を小説に費やすからとらせてくれて、頼んでくる！

婆さん ならこんなとこ来ずに小説書きな

男C 神さえも動かそうとするお前、かつこいいぞ

男B ああ。(拝殿に向かいながら) 力を下さい！ネタを下さい！感動的なプロットを下さい！

爺さん ちよつとは自分で努力しろよ。どんだけわがままなんだよ

赤ずき あはははは

あひる お爺さん

爺さん なんだ？

あひる 世界が別だつて言う割に、どうしてあの人達に興味を持つんですか？

爺さん 俺に嫌味返しか？興味持つも持たねえもそれくらいしか面白いことないだろ

婆さん そうそう、こいつらの話はいい暇つぶしになるんだよ

爺さん しかしまあ、何も起こらねえし、早く消えさせてくんねえかな？

あひる 消えるって…怖くないんですか？

婆さん どうせ消えるなんてことはできないんだよ。眠ったと思っても、いつか起こされちゃうんだ

男A、女Cが帰ってくる。

女C これで大丈夫だね

男A うん…手術が終わって一段落したら、妹と親に会ってくれよな。紹介したいんだ

女C 嬉しい…うちの両親にも会ってね

男A ああ

婆さん 縁結びならよそ行きな

兼好が野球場の売り子のようにお守りを売り歩いている。

兼好 お守りどうですか？作家になりたい方なら、この絵馬！御利益ありますよ！

拝殿から帰ってきた女A、Bが興味を示す。男B、Cは帰って行く。

女B うわっ、可愛い！これ、桃太郎？いくらですか？

赤ずき 桃太郎が可愛い？(お守りを見て) 可愛い！どうして、どうして！

爺さん婆さんが笑い転げるのを、桃太郎は睨みつける

兼好 一つ、五百円ですが、なんと！今なら三個で千円ですよ！

女B なら一緒に買おうよ、私は、桃太郎とはなさかじいさんと金太郎！

女A あと、絵馬下さい

兼好 ありがとうございます。お守りが三個で千円と、絵馬は二千円です

兼好はお金を受け取ると、絵馬とペンを渡す。

兼好 そこで願い事をお書き下さい

兼俱 お守り三個で千円は、いいのか？

兼好 千円という事で購買意欲を高めてるんだろ。絵本供養も、一冊百円、ただし段ボール一箱

千円で最初から書いてんなら文句言わないよ

兼俱 なるほど。それにしても、賑やかになったな

兼好 まだまだこれからだよ。人が増えると嬉しいもんだろ？

兼俱 まあな…

女A 書けました

兼好 なら、本殿の横に絵馬かけがありますので、おかけ下さい。願いがかなうといいですね

女A ありがとうございます

女B あの、私達「スマートウォーカー」を見てきたんですけど、名取先生も来られたんですけどね？

兼好 はい。もしかして、作家を目指しているとか？

女A ええ…漫画ですけど

女B 私がシナリオを書いて、この子が絵を書くんです

兼好　　そうですか。もしデビューされたら、本を持ってきて下さいね。ここに奉納されるとご利益がありますよ。大ヒット間違いなしですよ！

女B　　そうなんですか？持って来れるように頑張ります！

女A、Bは帰って行く。

赤ずき　大ヒット間違いなしなの？

爺さん　そんなわけないだろ。あいつは天性の嘘付きだな

婆さん　商売もいいかげんにしてもらいたいね。これ以上人間が増えたら、眠れなくなっちゃうじゃない

栗原と多賀城が現われる。

兼好　　栗原さん！お待ちしていましたよ！

栗原　　お世話になります。どうですか、効果ありましたか？

兼好　　ええ。おかげ様で保守関係も売れ行き好調で。本当、栗原さんには頭上がりませんよ

栗原　　いえいえ。こちらもこう言っては失礼ですが予想外の反響を頂きまして。次の十一月号でも

秋祭りの特集を組めるようになりました

兼好　　ありがとうございます

栗原　　…それで、名取先生は？

兼好　　間もなく来られると思います

栗原　　もしかして、新作を？

兼好　　いえ、父が電話に出たので実際よくわからないんです。小さい声でぼそぼそと喋られたそ

うで。とにかく、見てほしいということですよ

多賀城　これ、お守りですよね？とりあえず何枚か写真頂けますか？

多賀城は兼好の写真を撮り始める。まー坊、けん坊、晴人が現われる。

まー坊　晴人、今日は塾休みなの？

晴人　　休んだ。サボりだからな。うちの親には言うなよ

けん坊　言わねえって。(多賀城に気づく)何写真撮ってんの？見せて

兼好　　おい、けん坊、邪魔するなよ。仕事中のの

まー坊　仕事って、なんの？

兼好　　大事な仕事！

晴人は奉納されている絵本を読み始める。名取が現われる。子供達がいるのを見て足が止まる。

兼好　　名取先生！お待ちしていましたよ

けん坊　先生？どこの先生？

名取　　：

兼好　　偉い人は先生って呼ぶんだよ。少しお待ちください、父を呼んできますから

まー坊　なんの先生なんですか？

栗原　　絵本の先生。名取先生、お久しぶりです。栗原です

名取　　あ…あ…

けん坊　先生、絵本書けるの！書いてよ！書いて！

名取　　え…あ…

名取は子供達に囲まれて困惑する。

晴人　　やめろよ。うっとおしって思われてるぞ

名取　　：

晴人　　子供が嫌いだって大人もいるんだよ

赤ずき　この子性格悪い。どうしてだろ？

まー坊とけん坊は名取から離れる。兼好に連れられて兼俱が現われる。

兼俱 お電話ありがとうございます。どうされましたか？

名取 あの：昨日、朝のワイドショーを見ていて：私、芸能人詳しくないんですけど、誰かが婚約したとかですごい指輪をしていて、あと政治家の人達がすごく怒ってて

兼俱 ……はい

名取 私はもの凄く飲んでて、ビールを五本か六本か：いやもったかな。そしたらテレビでまた同じニュースやってて、何回同じことやるんだよって思ったら夕方のワイドショーだったっていう：

栗原 名取先生、落ち着いて下さい

名取 なんか書けたんです。気づいたら、そこらへんにあった紙に書いていました

栗原 新作ができたんですか！

名取 え：いや：

兼俱 ……寝ている間に書かれたということですか？

名取 私、もともとプロットとかなしに、その、インスピレーションでばばっと書きちゃうタイプなんです。だからお酒で意識がないあいだに書きちゃったんでしょうね。でも、ほんとひどいですね、これ：でも書きちゃったんで：捨てるのもダメだと思っんで：燃やして下さい

兼俱 それは、絵本供養ということですか？

名取 はい、あの：そういうことです：特別供養で

爺さん またか！

赤ずき 誰か来るの！

兼好 ありがとうございます！わかりました（原稿を受け取る）

多賀城 すみません、お渡しするところ、写真に撮らせて頂けますか？

名取 え：

栗原 兼好さん、よって頂けますか？名取先生は、自然な感じで。よろしければ笑顔を

名取 いや、あの：

栗原 ああ、わかりました。笑顔はいいのでカメラの方を向いて頂けますか？

多賀城は何枚か写真を撮る。

兼好 じゃあ、奉納してきますね。名取先生も来られますか？

名取 いいです。あの、お金は？

兼好 けっこうですよ。名取先生のおかげで参拝する人増えたんですから。これからは何冊持って

こられても本殿に奉納させて頂きます

爺さん 何冊でもって、ほんとたいがいにしてくれよ

赤ずき いいじゃない。たっくさんお友達がくるんでしょ？ねえ、どうしていやなの？どうして？

兼俱 コピーをとらせてもらっても、よろしいですか？

名取 どうしてですか？

兼俱 読みたいんです

名取 ……

兼俱 このまま読まれずに燃やされるのも可哀そうですね

名取 おまかせします

栗原 多賀城、写真

多賀城 はい！

名取と子供達を残して全員本殿に向かう。

ウサギと雪女が現われる。

ウサギ おいおい、みんな行列して。また特別供養かよ。熱心な氏子さんだな、あの姉ちゃんは

雪女 あの人間の悲しみが、私達に何をもたらすのか：

桃太郎 ウサギ、この時代は前と何が違うんだ？調べているのだろう

ウサギ ま、社務所の新聞を見てる限りじゃ、相当景気が悪いみたいだな。日経平均も十五年前の半

分くらいだ。便利な機械は増えてるようだが、心は貧しくなってるって…これは新聞の受け売

りだけどな

貧乏神 貧乏！

ウサギ そりゃ貧乏神が元気になるわけだ

兼俱 読み聞かせは、もうやってらっしゃらないんですか？

名取 はい

兼俱 寂しがっているでしょうね、子供達は

名取 ……

兼俱 どうして、読み聞かせをやらうと思われたんですか？

名取 初めは週刊誌の企画だったんです。絵本作家自らが絵本の読み聞かせを行う。…宣伝活動の一環だと思っていました。でもそれからはボランティアで読み聞かせをするようになって…

そこで…出会って…

兼俱 月のウサギというお話、御存知ですか？

ウサギ 月のウサギ

兼俱 行き倒れの老人になにもしてあげられなかったウサギが自ら火の中に飛び込んで食料になる…それを見ていた神様がウサギを月にのぼらせた。ならどうして神様はウサギが飛び込む前に助けてあげなかったのか…

前助けてあげなかったのか…

名取 ……

兼俱 ……兼好の奴、遅いな…名取先生。お札をお渡ししたので、すみませんが本殿まで来て頂きますか？

名取と兼俱は去って行く。入れ違いに兼好が現われる。

兼好 父さん！コピー…あれ？

けん坊 なに、それ

兼好 先生の絵本だよ

まー坊 うわ、すげえ。読もうよ

兼好 じゃあ、父さんが来たら渡してよ。汚すなよ！

兼好は去って行く。

けん坊 漢字が難しいな…晴人、読んでよ

絵本を見た晴人は興味をひかれる。

晴人 「あのあとのシンデレラ」か

赤ずき シンデレラ？

晴人 「無事王子様との結婚式を終えたシンデレラは、一人、部屋で今までのことを思い返しました。ママ母と姉からいじめられていた毎日、魔法使いと出会った奇跡、ガラスの靴が引きもど

してくれた幸運。その時シンデレラの中に一つの疑問がわきあがりました」

今までは霧囲気の異なるシンデレラが現れる。

シンデ どうして王子様は私を探しに来なかったのかしら？ガラスの靴だけを持って、しかも部下

に探しに来させるなんて

赤ずき どうしたの、シンデレラ？

雪女 まさか…

シンデ わかったのよ。王子様を探していたのは私じゃないの。ガラスの靴さえ入れれば誰でもよかつたの！ガラスの靴さえ入れれば、姉さん達がお城に行っても『おお、あの時の！』って言った

はずよ、あいつ

あひる ガラスの靴は、シンデレラさんの美しい魂の象徴ですよ。心の汚いお姉さんやお母さんに入

るわけありません

シンデ 本気で言ってるの？…あのね、私と足のサイズが同じ人がいて、同じ靴が入らないってある

と思う？私が王子様を選ばれたのは、運がよかつたから！王子様は私の中身なんか見てない！
この世界で大事なものはリアル！物なのよ

ウサギ 変異だな

爺さん いやー、お前、いいこと言うじゃねえか。心が汚くても靴くらい履けるってんだ。だいたい俺も、意地悪だからって毎回毎回失敗するほうがおかしいんだよ

婆さん そうそう

シンデ それは、あなた方に戦略がないからです！行き当たりばったりで物事に向かいすぎなんです。はなさかじいさんでも、自分で一度灰をまいて効果を確かめた上で、お殿様のもとに行くべきだったでしょう

爺さん 俺は説教は嫌いだよ

シンデ お婆さんも！どうして舌切雀を追いかけたあと、大きいつづらを持って帰ろうとするんです？小さい方に小判が入っているのはわかっているのに

婆さん おっしゃる通りです

貧乏神 貧乏！

貧乏神が二人のもとに近付く。

爺さん うわっ、あっち行けよ

シンデ だからね、私の国の人間には物の大切さを教えます。心を豊かにする前にいかにお金を残すのか考えるの、財産を残すのか考えるの。裕福であれば、心なんてあとからついてくるのよ
あひる 違いますよ！身分でも、顔でも、財産でもなく、美しい心が一番大切なんです
シンデ だから。あのね、こういうことよ

シンデレラは赤ずきんのずきんを奪い取る。

赤ずき あ、何すんのよ！

シンデ あなたもね、他から見たらただのずきんなのよ。こうやってかぶせれば（あひるにかぶせる）

名無しちゃんが赤ずきんに大変身。赤ずきんは名無しちゃん

あひる そんなわけないじゃないですか

赤ずき そうだよ、赤ずきんは私だよ

赤ずきんがずきんを取り返そうとした時、金太郎が現われる。

金太郎 桃太郎さん、今日こそ相撲をとりましたようよ

桃太郎 すまないが、それどころじゃない

金太郎 仕方がない、今日も赤ずきんちゃんにとりましょう

金太郎は、ずきんをかぶったあひるのほうに向かう。

金太郎 はい、はっけよい、のこったのこった、そう、ここを持って。はい、上手投げ！いやー、赤

ずきんちゃんお強い！

赤ずき 金太郎のバカ！

赤ずきんは泣きながら去って行く。

金太郎 あれ、私、何かしましたか？

シンデ ほらね？金太郎、このこは名無し。泣いてむこう行ったのが赤ずきん

金太郎 そんなわけないでしょ、毎日相撲とってるんだから。なんといつてもこのずきん

あひるはずきんを外す

金太郎 あ…謝ってきます！

金太郎は赤ずきんを追いかけていく。

シンデ わかりましたか？でも勘違いしないで下さい。私は意地悪で言っているではありません。

夢見がちでバカが多いあなた方に、現実というものを教えているのです

桃太郎 霞のような存在の私達が現実を語る：それも面白いな

晴人

「そして、夢見がちな王国がどんどんと借金まみれで崩壊していく中、早くから人員削減、堅実な資産運用、貴族特権の廃止という現実的な政策を行ったシンデレラの王国のみが崩壊を免れたのでした。初めは反発の多かった国民も、今ではシンデレラを讃えています。ありがたいシンデレラ、素晴らしいシンデレラ、夢はなくても国はある！シンデレラはその声を聞きながら、いつまでも幸せに暮らしましたとき。おしまい」

シンデレラは笑いながら去って行く

名取が本を読んでいる子供達を発見する。

名取 あ、見ないで！

晴人 面白いです

名取 …え？

晴人 本物のシンデレラより、こっちのほうがリアルだよなあ？

けん坊 うん。たしかに、靴が入らないってのはおかしいよな

まー坊 けんちゃん靴、僕もはけるもんね

名取 …

晴人 もはやシンデレラストーリーなんて死語なんだよ。理屈のない成功なんてこの世界にはない。このシンデレラみたいに、政治家のみなさんが頑張ってくれなきゃ、僕らの世代にすべてしわ寄せ。成功自体が死語になるかも。あー、今の子供って不幸だよな

名取 …

兼俱 ハハハ、名取さん、子供達に好評じゃないですか。また面白い作品ができれば持ってきて下

さい

名取 ああ…えっと

ウサギ 兼俱、何言ってるんだよ。こっちはめんどろなんだぞ

名取 実は…

名取は本を取り出そうとするが、兼好と多賀城が帰ってくる。

兼好 栗原さん、バッチリですよ。先生の作品が奉納される様子。十二連写で撮影しました。これを

をパラパラ漫画みたいにページのすみに

名取 ああ

兼好 名取先生！これで咲花神社に箔がつけました！ありがとうございます！十一月の秋祭りも、

ゲストで来て頂けませんか？

名取 いや…

兼好 もしお時間があわないようでしたら：秋祭りを一週間や二週間、ずらしてもかまいません！

兼俱 ずらせません。まったく、お前は調子に乗りすぎだ。名取先生、無理なさらないで下さい。

ただ、お焚きあげもありますので、お時間があればそこだけでも見ていかれたらどうですか？

えっと…これも…お願いします

これは？

名取 書けちゃったんです

兼好 兼俱 ありがとうございます！「赤ずきんの美人局大作戦」「桃太郎サーティーン」「三年引きこも

つ太郎」

名取 (恥ずかしい) ああ

ウサギ はあ！

あひる これもみなさんの、パロディー？

名取 勢いで書いただけの低俗な作品です。こんなものを本殿に入れさせてもらっていいんです

か？

あひる …

兼俱 日本の神様は、すべてを受け入れて成長してきたんです。全部引き受けますから、どんどん

名取 持ってきて下さい

本当に？

兼俱 はい。ここは、そういう場所ですから。いつでもいらしてください
名取 ありがとうございます。また来ます

栗原 名取先生：
（去る）

爺さん こつちに迷惑がかかるのも知らずに、のんきなもんだぜ

雪女 実りがあることならば、引き受けようとは思わないの？

婆さん あたしらは根っからの意地悪だからね

桃太郎 この本が実らせるのは、食べられる果実か、毒の実か。それが問題ではないか？

雪女 桃太郎：

去って行く桃太郎を雪女は追いかける。

兼好 栗原さん、じゃあ、展覧会の話

ウサギ 展覧会？

婆さん なんだい、それ？

栗原 あ：はい。電話でご連絡した通り、会場の百貨店さんも運送屋さんも：あのままでかまいませんよ

兼好 ええ、もちろんです。本当にすみません。何かから何まで段取りして頂いて

栗原 いえいえ、当然です。宮司さんありがとうございます。無理なお願いを許可して頂いて

兼俱 いいんですよ。息子に任せていたら心配ですが、スマートウオーカーさんのおかげでこれだ

ウサギ け賑やかになったんです。本殿の古本が人々を喜ばせるのであれば、出しましょう

栗原 あれを出すのか！俺達の魂だぞ！

兼俱 はい、あれだけの本が揃ってれば、大成功間違いなしです

兼好 ただ、安全にだけは気をつけて下さい。御先祖様からお預かりした大切な品物ですから

兼好 そこは任せてよ。なんとって一億円の保険をかけたんだから

兼好 一億！そんな、保険料はいくらになるんだ？

兼好 こういうのも、話題作りなんだよ。宣伝費用だと思えば保険料なんて安いもんだよ。ねえ、

栗原さん

栗原 ええ、まあ

兼俱 なら：よろしくお願ひします。この本は私が奉納しておくよ

けん坊 それも読みたい！

兼俱 ああ：いいのかな：

兼俱、子供達は本殿に向かう。

兼好 うん、お願ひ。じゃあ、話を詰めていきましようか

栗原 はい。その前に、ちよっとだけよろしいですか？

兼好 ？

栗原 お参りを

栗原は拝殿に向かう。栗原の後に兼好、多賀城も続く。

婆さん 何を祈るんだか：

あひるもついでいこうとする。

爺さん お前、何しに行くんだよ

あひる みんな、幸せになりますようにって

爺さん 祈ったって神様がいないことはお前がよく知ってるだろ？

貧乏神 我は神だ！

爺さん そうだそうだ、そこで祈るよりはそいつに祈れ！

婆さん 御利益は抜群だよ！幸せにはなれないけどね

あひる

貧乏神 気持ちはいい！気持ちはいいぞ！人間どもよ、もつと苦しみを吐き出せ！憎しみよ！我に

降り注げ！

兼俱達は奥へと去って行く。
金太郎があわてて走ってくる。

金太郎 名無しちゃん！

あひる はい？

金太郎 早く逃げて！赤ずきんちゃんが来る！

あひる え？どうして逃げるんですか？

色気に満ちた赤ずきんが現われる。

爺さん お、これはべっぴんさんにかわったな。酌でもやってくれよ

婆さん 爺さん！

赤ずき 気やすく誘わないでくれる？ようやく成長できたんだよ。この赤は、男を誘う赤。狼に食べられたんじゃないよ、食べさせたんだよ。食べられたふりして、命を貰うんだよ

赤ずきんはあひるの前に向かう。

赤ずき さつきはよくも恥かかせてくれたね。物語もないくせに、どうやってここに紛れ込んだ？男でもたぶらかしたのかい？ねえ？

あひる わかりません：本当にわからないんです

赤ずき 言っとくけど、お前は仲間じゃないからね！

金太郎 そんなことないですよ。赤ずきんちゃん！

赤ずき 金ちゃん、何言うのよ：私達、体をまさぐりあつた仲間じゃない？あの名無し女と私、どっちが正しいの？

金太郎 そりゃあ：(デレっとして) 赤ずきんちゃんのほうが

赤ずき よねー。なら、あの女と話しちゃだめだからね

金太郎 …うん

赤ずきんと金太郎は密着して去って行く。

爺さん なんだありや

婆さん 魔性の女だね：爺さん！酌ってなんだい？ちよつと向こうで話しようか

爺さん 婆さん：すまねえって！

爺さんは婆さんに引きずられて去って行く。

あひるは一人になる。自然と涙がこぼれる。

桃太郎が来るが、あひるは恐れて目も見れない。

桃太郎 どうした？私が怖いのか？

あひる みんな変わっていくから：

桃太郎 心配するな。私は大丈夫だ

あひる 桃太郎さんの本が、奉納されたんじゃないですか？

桃太郎 私は、慣れているからな

あひる 慣れるなんてことはあるんですか？

桃太郎 私達は人間の思いでできている。人間は辛い事に慣れ、そして忘れて行く。そこは私達も変わらない

あひる 桃太郎さんは、私知っています桃太郎さんとは：何か違うんです

桃太郎 …そういえばお前、その桃太郎のことはどこで知ったんだ？お前は物語がないんじゃないかな

ったか？

あひる …わかりません。でも、みなさんのことはよく聞かされていたように思います。ずっと前から知っていたんだと思います…

桃太郎 そうか：それで、どう違うと言いたい？

あひる 私の知っている桃太郎さんはもっと…人懐っこくて、誰にでも話しかけて…
桃太郎 私はどうなんだ？
あひる 何か…距離を置いていっているとか…恐れているように見えます
桃太郎 恐れている？私が？
あひる はい…
桃太郎 はい、当たっているかもしれないな。鬼よりもはるかに怖いものがある
あひる なんですか？
桃太郎 人間の…願いだ

桃太郎は去って行く。
暗転

三場

さらに一ヶ月が経過した。女A、B、Cがお参りに来ている。まー坊、けん坊が携帯ゲーム機で遊んでいる。貧乏神は二人のあいだを行き来している。貧乏神が後ろに立つとゲームはうまくいかず、二人はくそと声をあげている。晴人は絵本を読みながらゲームする様子を眺めている。その光景を意地悪爺さん、ウサギが暇そうに眺めている。あひるは隅に座っている。婆さんは折り紙を折っている。

爺さん 暇だな

婆さん 暇だねえ

爺さん 秋祭り早く来ねえかな…

あひる 秋祭りが来ると、どうなるんですか？

爺さん どうなるああなるってお前は赤ずきんかよ…せっかくなあいつの質問責めがなくなったのに。

たまには一人で考える

あひる すみません

婆さん 肩もみな

あひる はい

婆さん 秋祭りが来てお焚き上げが終わると本殿の中はまた古本だけになる。そうしたら人間の思

いが薄くなるから私達はたいていお役御免、また思いが強くなるまで眠りにつく

爺さん いや、この繁盛ぶりだともっと続かもしれんぞ

婆さん いやだねえ…面白い事でもあればいいけど。変異したのも赤ずきんとシンデレラの外人二

人だけだしね

ウサギ 外人じゃなくて、外国人だぜ

爺さん なんだそれ？

ウサギ 外人は差別用語なんだとき。お前らも暇なら新聞でも見たらどうだ？この十五年で色々

変わっているぞ

爺さん 嫌だよ。なんで朝から兼俱の後ろで新聞覗かなきゃなんねんだ

ウサギ それしか見る手段がないから仕方ねえだろ。それよりいいのか？

爺さん 何が？

ウサギ 今日は俺達の本が運び出されるぞ

爺さん 別にどうってことないだろ。てか、できたら何か起こってほしいや。暇だけは我慢ならねえ

婆さん 折り紙やるかい？

爺さん いいよ

あひる 折り紙お上手ですね

婆さん そりゃやることないからね。舌切雀のハサミで障子紙を切った、特製折り紙だ

けん坊達のゲームは白熱している。

けん坊 くっそ、またボンビーかよ！なんで上手いかねえんだよ！

貧乏神 ボンビー！

爺さん なあ、貧乏神よ、それ面白いのか？

まー坊 くつつけないでよ、あっち行ってよ
貧乏神 我を讃えているのか？我を！

爺さん なるほど、通り過ぎたら貧乏神がくつつく…うわつ、来るなよ

爺さんは婆さんになすりつける。

婆さん やめてくれよ

婆さんはウサギになすりつける。

ウサギ おいおい

ウサギはあひるになすりつける。

あひる …

貧乏神 ここは居心地がいいぞ！

突然寝太郎が立ちあがる。

爺さん なんだ！

ウサギ 寝太郎、どうした？

寝太郎はそのままどこかに去って行く。

婆さん 何かあるのかしら？

ウサギ …あいつは凄い能力を持つてるからな。何かが起こるぞ…

兼俱が現われる。

兼俱 おはよう

けん坊 おはよう！

まー坊 おはようございます

晴人 おはようございます

兼俱 晴人君はゲームしないの？

晴人 はい。やったらバカになるって親が言うから

けん坊 俺の貸してやるっていつも言ってるのに

晴人 だからいいって…よくわかんないし

まー坊 教えてやるって。ほら

兼俱 貸してもらったら？

晴人 …いい

まー坊 これが俺で、こっちがけんちゃん。こうやってさ

晴人 だからいいって！

けん坊 じゃあ、ゲームやめてゲンコツ山に行こうぜ！

晴人 お前らだけで行けよ！

まー坊 三人で遊んだ方が面白いじゃない

晴人 俺は本読んでるって！

まー坊 じゃあさ、桃太郎ごっこやろうよ

晴人 やるかよ！お前らいくつなんだよ！

けん坊 俺、桃太郎やる！

まー坊 じゃあ俺は町内会長！『モモを十三個用意しました、桃太郎さん！現われて下さい！』

けん坊 『モモが集まる時、私は現われる』

まー坊 『桃太郎さん！お願いします、町内会の平和を守って下さい！』

けん坊 『わかった…引きうけよう』晴人、モンスター近所の人やって

晴人 だからやらないって！山行ってくる（去る）

けん坊　なんだよそれ、あまのじゃくかよ…おっかけようぜ
まー坊　そうだな

子供達は山に向かう。兼好が現われる。

兼好　本殿の整理はできたよ。名取先生の本以外全部出したけどよかった？
兼俱　ああ。任せるよ

名取が現われる。少し、ふっきれたかのような表情をしている。

兼好　名取先生！

爺さん　また来たのかよ

兼俱　お久しぶりですね。今日も、新しい本を？

名取　はい…。あの、読んで下さい

兼俱　よろしいんですか？

名取　読んで頂きたいんです。先日宮司さんに読んでもらって…気持ちの整理がついたんです

兼俱　わかりました。じゃあ奉納してきますね（本殿に向かう）

栗原　すみません、遅くなりました！

栗原が多賀城を連れて走って現われる。

兼好　栗原さん！大丈夫ですよ。運送屋さんはまだですから。多賀城さん、親父が今本殿に行きました。新作を奉納しに

多賀城　はい！（本殿に向かう）

栗原　新作？

名取を遠巻きに見ていた女A、B、Cが声をかける。

女B　もしかして、名取先生ですか？

名取　え？はい…

女C　やっぱり！

女A　やだ…（感動する）

名取　…

女B　「スマートウオーカー」がきつかけで先生の絵本を読ませて頂いたんですが、ほんと私達感動

動したんです！

名取　ありがとうございます

女C　漫画でも絵本でも、大切なのは夢ですよね！

名取　うん…そうね。夢を見る？

女B　はい！私達、絶対に漫画家になるんです！その為にはどんな辛い事でも乗り切ってみせます！

名取　そう…

女A　握手…いいですか？

名取が小さく手を差し出すと、女A、B、Cは次々と手を握り締める。そして口々に感謝の言葉を述べて帰って行く。

名取　栗原さん

栗原　はい？

名取　あの子達、漫画家になれると思いますか？

栗原　…どうでしょう

名取　なれるわけない

栗原　…

名取　乗り切ることができない辛い事、いくらでもある。夢を見るっていいことなんですかね？

栗原　…

名取 意外ですか？私がこんなこと言うよ

栗原 :あの名取先生、すみません、お電話させていただいた編集長の話ですが
名取 ああ

運送屋 A、B が現われる。

運送 A おはようございます、ラピート運輸です！お荷物をお預かりに参りました

兼好 わざわざありがとうございます。どうぞ、こちらへ。栗原さん

栗原 あ、行きます！じゃあ名取先生、少しお待ちください。荷物の仕分けがありますので（本殿
に向かう）

爺さん はあ：暇だ、暇だ。覗きにでも行くか

意地悪爺さん、婆さんは本殿に向かう。

ウサギ さあ：どこに行けば一番状況がわかるのか：

ふらーっと寝太郎が現われる。オタクの引きこもりという服装に変わっている。手には携帯などの
端末を持っている。寝太郎は定位置に寝転ぶと端末をニタニタしながら見つめる。

あひる 寝太郎さん？

寝太郎 :

あひる 変異ですか？

ウサギ 寝ているところは同じだけどな：

寝太郎 （あひるではなく、画面に向かって）おっす、オラ、ニート！ムヒヒヒヒ：

あひる 寝太郎さん

あひるが寝太郎のそばに行こうとすると。

寝太郎 僕の部屋に入るな！

あひる 部屋？

寝太郎 ご飯はそこに置いとけ！

あひる すみません：ごほん？

ウサギ 変異だろうが：どうして今頃？

赤ずき ねえ、ウサギ！本殿に人が集まってんだけど、あれ何？

赤ずきさんが現われる。寝太郎のそばを通ると。

寝太郎 だから入るなって言ってるんだろ！

赤ずき はあ？

寝太郎 何回言ったらわかるんだよ！このドキュン女！

赤ずき お前、誰に向かって口聞いてんだよ！金ちゃん！

金太郎 はーい。ちよっと君、俺の赤ずきんちゃんに何してくれてんの？

赤ずき あら。今日は金ちゃんやる気じゃない

あひる 金太郎さん！

金太郎は総合格闘技のかっこうをしている。立ち上がった寝太郎とがっぷりよつになる。貧乏神
はいつのまにか寝太郎の背後に立っている。審判のようにキビキビと動く。

寝太郎 あのね、お母さんが、寝太郎はいつとも寝てるけど、将来は横綱になるわよって言ってたよ。

投げ技ってゆうのはね腕の力じゃないんだね、重心を落として、へその上に相手乗っけるイ
メージで：

寝太郎のウンチクが言い終わるのを待たず、金太郎は眼つぶしで寝太郎をひるませ、地面に転が
す。そして、マウントをとり、上からボコボコに殴る。最後に関節技でフィニッシュ

赤ずき ウィナーイズ、キンタロー！

金太郎は見えないマイクを手に持ってマイクパフォーマンスを始める。

金太郎 おい！大相撲ファン！八百長八百長つてうるさいんだよ！（見えない観客にむけて）何黙ってんだよ！これがガチンコだ！これが、お前たちの望んだ、本気の勝負だ！反則？バレなきやいいだろ。怪我してるところは殴る！倒れたらとどめをさす！俺が、お前たちに、本当のガチンコを教えてやるんだ！わかったか！（マイクを叩きつける）

あひる 寝太郎さん、大丈夫ですか！金太郎さん！ひどいじゃないですか！

赤ずき 何がひどいのよ、ケンカ売ってきたのはこいつでしょ？

あひる やりすぎですよ！

金太郎 あのな、真剣勝負にやりすぎなんてないんだよ。勝てばいいんだ！今のお客は、勝つことしか求めてないんだから！

あひる お客さん？金太郎さん、しつかりしてください！金太郎さんは優しく強い、子供達の模範じゃないですか

赤ずき あのね、勝手なこと言わないでもらえる？優しく強いが模範になる？子供に必要なのは強さだけよ！大人は嘘の夢をささやいて、自分達に都合のいい社会を作る。子供が大人になった時、そこにあるのは地獄のような現実！狼の住む森！無邪気な子供がそんなところで一人、生きていける？生きていけないから、みんな優しさを捨てるの！私は女を使うの！

サンバの音が聞こえる。その音にふさわしい恰好になって雪女が現われる。マラカスを振っている。シンデレラもマラカスを振って現われる。意地悪婆さんも踊っている。

雪女 なにピリピリしてるの？みんな怒ってないでスマイル、スマイル！倒れているあなたも、名前のないあなたも、笑って笑って！

雪女はノリノリでサンバを踊る。

あひる 雪女さん！

赤ずき 雪女？！

あひる 何があったんですか？

雪女 あのね、最近の男は腰が軽くないと寄ってこないの！いつまでも優等生タイプじゃダメなのよね。だからイメチェンしてみたの！

シンデ 女の幸せは男次第ですもんね。まずお金！そして顔！

雪女 違うわよ！まず顔！顔がよければ貧乏でもいいじゃない！

シンデ あなた、それで結婚失敗したんでしょう？

雪女 アハハハハ、まあいいじゃない！ほら、みんな踊ろう！金太郎も、赤ずきんも！

赤ずき 私：踊るの好き！

赤ずきさんが踊るので仕方なく金太郎も踊る。

雪女 寝太郎も！

寝太郎 はい！

寝太郎も踊り出す。どうやら雪女の言う事は聞くようだ。

雪女 名無しちゃんも！

あひる …変異ですか？

雪女 何難しいこと言ってるのよ。今日はそんなのナシよ！踊ろう！

あひる …

雪女 なにこの子、ノリ悪い。ほら、みんな、ほっといて踊ろう！…あれ、ウサギは？ま、いつか！

雪女の一団が去ると、ウサギが現われる。貧乏神も踊りながら去って行く。

ウサギ ひゃー、参ったな。ウサギがサル踊りなんてしやれにもなんねえぜ
あひる ……どうしてみんな変わっていくの？
ウサギ そりゃあいつの本のせいだろうが…ただごとじゃないぞ。雪女の話だって、もともとは古い話だ。それに

意地悪爺さんが現われる。

爺さん 金太郎つてのは坂田金時の伝記みたいなもんだ。なあ、ウサギ。利口な者どうし、たまにはゆっくり話しあわないか？

ウサギ 一緒にするなよ。やなこと。俺は一人で調べるぜ

ウサギはどこかに走って行く。

爺さん なんだお前（あひる）、いじめられたのか。守ってくれる奴もいないしな

あひる ……

爺さん 婆さんは盆踊りで行っちゃまった。そうなりや俺も一人だ

あひる ……

爺さん あんな、何されたか知らないが、それがお前の役目なんだ。だからあんまり気にすんな

あひる ……（驚く）

爺さん ああ、間違えた。お前には物語すらなかったんだな（爺さんは笑う）

あひる ……ありがとうございます

栗原、多賀城、兼好、兼好、運送屋達が本殿から帰ってくる。運送屋達は木箱や段ボールを何個も運んでいる。

運送A では、確かにお預かりしました

栗原 あと、よろしく願います

兼好 安全にだけは気をつけて下さい

運送A もちろんです！一億円の保険ですもんね

栗原 私達もすぐに追いかけますから

運送A はい、よろしく願います。では（去る）

栗原 名取先生、お待たせしました。すみません、うちの編集長が御迷惑をおかけしまして

名取 いえ…

兼好 何があったんですか？

栗原 私の書いた記事を見た編集長が、幻の名取作品を出版させるって言いだして

兼好 まぼろしの…？

栗原 はい、奉納した…

兼好 あれですか？

栗原 「あのあとのシンデレラ」や「三年引きこもつ太郎」なんかを。絶対に売れるなんて言いだ

して

名取 ……

栗原 私は先生の味方ですからそんなことはさせません。編集長のごことは任せて下さい。先生は一

日でも早く元気になってください

名取 私、引き受けようと思っっています

栗原 え？

名取 出版してもらっていいです。編集長さんにもそう伝えるつもりです

栗原 先生、そんなことしたら今までの実績が

名取 いいんです、そんなものは

栗原 ……

名取 私、自分に嘘をつくのやめました。あれも私の一部です

栗原 ……

兼好 栗原さん、急がないと…

栗原 あ、はい…

栗原、多賀城、兼好は展覧会の会場へと向かう。

兼俱 近寄られると離れたくなる、人間とは不思議なものですね

名取 ……子供だけです

兼俱 どなたが？

名取 私が

兼俱 そうですか。だから、素敵な絵本が書けるんですね

名取 どういう意味ですか？

兼俱 そのままです。子供の気持ちを失わないために、先生は努力されてきたんだと思います

名取 努力だなんて…本当に幼いだけです

兼俱 才能ということですか。では拝見しましょうか…今日は三冊ですね

名取 ええ

兼俱 まず、金太郎…ふんふん（笑って）失礼。設定が面白かったので。金太郎が総合格闘技に参

戦して相撲界を救うんですか

名取 真剣勝負って残酷なのに、どうしてみんなそれを持ちあげるんですか？金太郎が次々と相手選手を破壊して、真剣勝負のむなしさをお年寄りに教えていくんです

兼俱が黙読する。

爺さん 金太郎もあいつの本の通りに変異したんだな…

あひる ええ

爺さん となると、どうして今日なのかだ

あひる 本殿から本を出したからじゃないでしょうか？寝太郎さんの本が奉納されたのって、ずいぶん前ですよ

爺さん そうなるよな。なんせあの本がここから運び出されるなんて初めてだからな

あひる 変異って昔からあるんですか？

爺さん そりゃそうだよ。お前、兼俱が生まれた時から爺だったと思うか？

あひる いいえ

爺さん 物語だっと同じだ。ずつと変わってきて今がある。お前、知らないだろ？シンデレラの話で

姉ちゃんがどうなったか？

あひる え？改心して幸せに暮らしたんじゃないですか？

爺さん 昔は火あぶりにされたり、目をくりぬかれたりしてたんだ

あひる うそ…

爺さん それがその時代のけじめのつけかただったわけだ。だがな、それが今の形になるまで百年以

上かかっているんだ。今回は急すぎる

あひる はあ…

爺さん わかっているんだろ？

兼俱 （二冊目の本に持ちかえて）…「雪女のサンバ」。なるほど、己之吉（みのきち）と別れた

雪女がブラジル人とめぐり合うんですか

名取 ええ。己之吉を掘り深くしたようなブラジル人のシウバに雪山で出会って再び恋に落ちる

んです。シウバはブラジルに帰ってしまうんですが、雪女は日本を飛び出し、新しい愛の形を

見つけていくんです

爺さん たとえばさ、雪女は、サンバを踊らねえんだよ。服装は白、口から氷の息を吐く。そういう

認識が、たいてい江戸時代にはできあがっている。だから日本の物語は外国のやつより変異しに

くいんだ

意地悪婆さんが帰ってくる。

あひる それだけ名取さんの思いが強いつことですよね…

爺さん さあな…

婆さん 考えるなんてよしな。雪女が踊り狂ってんだ、それだけで傑作じゃないか

爺さん まあそうだけだよ。そういや、桃太郎はどうなったんだ？こないだ、あいつの本も奉納され

てた。シンデレラや寝太郎と一緒に

あひる 桃太郎さんは変異しませんよね？
爺さん どういう意味だ？
あひる 慣れてるんでしょう？

婆さんと爺さんは笑う。

あひる どうして笑うんですか？知ってるなら教えて下さい
爺さん だから何でも質問するなって

あひる すみません
爺さん …肩もめよ

あひる はい
爺さん 俺達の中で、一番変異してきたのが桃太郎なんだ
あひる え！

婆さん 爺さん、やめときなよ。あいつを怒らせたら面倒だよ
爺さん かまわねえって。お前、言うなよ

あひる はい

爺さん 桃太郎は強い、めちやくちや強い。だから話を作りやすかったんだ

あひる 強すぎたから…？

爺さん どうやって生まれたか、どうして戦いに行くのか、お供は誰なのか、敵は誰なのか…話は次々と変わって行つた。そして、あの時がきた

あひる あの時？

爺さん そもそもあいつみたいに、自ら志願して鬼退治に行く奴つてのは日本の昔話にはないんだよ。それもまずかつたんだろうな…桃太郎はな

意地悪爺さんが続きを言おうとした時、兼俱が三冊目の本を読み始める。

兼俱 最後は…ほう、意地悪爺さんが主人公ですか
爺さん はあつ？

婆さん 意地悪爺さん！

名取 昔話の悪役である意地悪爺さんが現代の老人に乗り移るんです。そして乗り移られた老人が意地悪爺さんの赴くままに動き、ドタバタを巻き起こす

兼俱 これも面白そうだ

爺さん …俺の本が奉納されたってことだな？

あひる ええ

爺さん つまり俺が変異するってことだな？

婆さん そうねえ…

爺さん 何か俺、変わったか？

あひる …

婆さん …

爺さん …（ふざけて）おい、名取！

名取 …？

爺さん 乗り移れるわけないよな

婆さん そうだよ、そんなことができたなら私らは神様だよ

名取 今、誰か呼びました？

兼俱 いや

爺さん え！

婆さん まさか！

爺さん 名取よ！

名取 …？

兼俱 どうかしましたか？

名取 いえ…気のせいです

爺さん 婆さん！

婆さん 爺さん！

爺さん とうとうわしの時代が来たんだ！
婆さん 来たんだねえ！（呼びかけてみる） 名取！

名取

婆さん 私じゃだめみたい！

爺さん 大丈夫。わしがかわりにやってやる！まずは！

婆さん うん！

爺さん まずは！

婆さん うん！

爺さん …どうしよう？

婆さん …どうしたもんかねえ

爺さん ま、まあ考えよう

婆さん そうだねえ

晴人が帰ってくる。

兼俱 どうしたの？まー坊やけん坊は？

晴人 おいてきた。うっとおしいから

兼俱 うっとおしい？

晴人 うん…（本を見る）

兼俱 読むかい？

晴人は頷く。兼俱の読んでいたところまですぐに読み返す。

兼俱 晴人君は読むの早いなあ

晴人 当たり前です。そのためにお金払って塾に行ってるんです

兼俱と晴人は間もなく読み終える。読み終わった本を晴人はもう一度じっくりと読む。他の本も読み始める。

名取 …どうですか？

兼俱 面白いですよ。一冊一冊、名取さんの魂がこめられている

名取 これでいいんですよね？

兼俱 …？

名取 すみません…私はこの程度の人間だと認めることにしたんです

兼俱 この程度？

名取 この絵本は発売したら売れると思います。一回読まれて捨てられるような本だとしても。でもそれでもいいんじゃないかって考えると、これほど楽なことはないんですよね

爺さん 『そのとおりだ、お前ももっと、意地悪な本を書かなければならぬ。もっと書くのだ。意地悪爺さんに力を与えよ！』

名取は笑いだす。

兼俱 ?

名取 自分が嫌になってしまつて。書け、書けつてうるさいんですよ。私の心が。意地悪爺さんを続けろつて…あれ？なんで意地悪爺さんなんだろう？

兼俱 もう、いいんですか？その、ひかりちゃんのこととは

名取 いいわけないです。でも、考え方を変えました。私は、あの子に夢を与えようと全力を尽くしたんだ。頑張ったけど、力が足りなかっただけなんだつて

兼俱 名取さん…

名取 あの子と過ごした最後の日に、私は励ましてやれなかったんです。どうしても言葉が出て来なくて、嘘をつきました。明日のない子供に夢を与えることができなくて、何が夢を与える作家ですか？

あひる 名取さん…

名取 夢から逃げて、しばらく現実の中で暮らします。子供達のためでなく、時代にあった売れる

絵本を書こうと思っっています…ダメですか？

兼俱 いいえ、それを選ばれるのなら、私は否定しません

晴人 これが…夢から逃げた作品なんですか？

名取 え？

晴人 僕はわからないんです。大人って子供に夢を持ってと言いながら、安定した仕事につけ、みたいなこと言うでしょ。矛盾してませんか？親に聞いても笑うばかりで。大人になればわかるのかな、って思ってたけど、きつと親も知らないんですよ、夢のみかた

名取 …そうかもね

晴人 この意地悪爺さんの本でも、最後に桃太郎が来てやつつけるじゃないですか

爺さん ええっ！

晴人 これが夢なんじゃないですか？現実には桃太郎なんて絶対来ないでしょ？なのにどうして書くんですか？

名取 …

晴人 教えて下さいよ、全部の本、夢が最後にあるじゃないですか！寝太郎は引きこもりから抜け出すし、雪女は結婚する、意地悪爺さんは成敗される！生意気言いますけど…

晴人は口ごもる。

爺さん 『全部、言っしまえ！』

晴人 全部…現実じゃありませんよ。汚い部分を本にしてるとか言うけど、全部ごまかしてるじゃないですか。もつと社会は汚いところでしょ、救いようのないところでしょ？

名取 …違う

晴人 騙さないで下さい！子供だからと思っって！

婆さん この子、ちよつと言いすぎじゃないか？

爺さん いいんだ。『意地悪爺さんがやられるのはおかしい』

晴人 意地悪爺さんがやられるわけじゃないでしょ！

兼俱 晴人君、何を言ってるの？

爺さん 『意地悪爺さんのほうが正義の味方より強い』

晴人 正義が、力を持つてるわけじゃないです…ルールを破るやつのほうが強いです。正義はいつつも損ばっかりして…

名取 …でも、それを認めたら…おしまいよ…

晴人 それを認めてくれない人に何を言われたって心に響かないですよ！子供は、天使なんですか？汚いこと考えたらダメなんですか？僕は思ってますよ、親は精一杯やっただけ言いたいからお金をかけてるって！恐れていますよ。受験に失敗したら、僕はダメな子だって言われるって！あの人達の夢を実現できなかつたから！

貧乏神 気持ちがいいぞ！負のエナジーが集まってきている！

名取 …

兼俱 晴人君！

晴人 …大人の夢を押し付けなさい。それは…夢を与えていることじゃないと思います
名取 …そうか…私は…理想を押し付けようとしていた…じゃあ…どうしたらよかったの？私は、これから、どうしたらいいの？

まー坊が飛び出してくる。

まー坊 誰か！誰かいませんか！あ！晴人！

晴人 なんだよ

まー坊 かくれんぼは山の中だって言ったじゃない！

晴人 知らないよ。次は俺が鬼でいいだろ

まー坊 いいよそんなの！けんちゃんが崖から落ちた！

晴人 え！

兼俱 どこで！

まー坊 あつちです！晴人が全然見つからないから、どんどん危ない所探しに行っって…

兼俱 それはいいから、早くそこまで連れてって
貧乏神 はっはっは！（去る）

まー坊 晴人！

晴人 俺は関係ないよ。けんちゃんが勝手に落ちたんだから。かくれんぼなんてやってるからだ！

兼俱 晴人君！

兼俱 ならそこで待ってなさい

まー坊と兼俱は山へ向かう。晴人は座りこむ。

爺さん 『名取よ…この子供にも伝わる、意地悪な本を書くのだ。意地悪爺さんが、桃太郎にも負けないような強さになった！』

ウサギが慌てて駆け込んでくる。

ウサギ おい、大変だ、行けるぞ！

婆さん どこにだい？

ウサギ 遠くにだよ！トラックの通った道にはもやがかかってないんだ！あんまり遠くに行けるから帰って来たけど、こりやすごいぞ！町つてのが見える！

婆さん 夢でも見てるんじゃないか？

ウサギ そんなわけないだろ。間違いない

爺さん 『町に出て、意地悪を探すのだ。意地悪のエネルギーを吸収するのだ』はは、これ貧乏神の真似だ

ウサギ 何してるんだ？

あひる お爺さんの声が、あの人に聞こえるんです

ウサギ はあ？ほんとか？ならめちやくちやになった奴らを元に戻してくれよ。

婆さん 私達を誰だと思ってるの？これからとっておきの本をあいつに書いてもらうんだよ

ウサギ おい！そんなことするなよ！ずるいぞ！

爺さん 俺達は意地悪爺さんと

婆さん 意地悪婆さんだよ

ふらふらと帰って行く名取とともに、爺さん婆さんは笑いながら去って行く。

ウサギ こりや、えらいことになるぞ！

ウサギは三人のあとを追っていく。

あひるは一人になる。しかし、誰が来るわけでもない。とんでもなく孤独な気持になった時、桃太郎が現われる。変異が起こり、女性になっている。冷酷な殺し屋という雰囲気。鋭い空気はより一層強くなっている。

あひるもしかして…桃太郎さん？

桃太郎 ああ。よくわかったな

あひる 女の人ですか？

桃太郎 現代では男より女が強いらしい。そしてこれが現代の戦いの衣装…

あひる …

桃太郎 怖いのか？

あひる ここはどうなってしまうんですか？

桃太郎 どう変わるうが、眠りにつく日を待っただけだ

あひる 眠りはいつ来るんですか？

桃太郎 忘れられた時だろうな

あひる それは、いつ？

桃太郎 さあな。人間の気持ちと言うのはよくわからない

あひる 桃太郎さん、変異したんですね？性格は変わったようにみえませんか

桃太郎 それが慣れているということだ

あひる どうなお話になったんですか？

桃太郎 今回も戦うだけだ。おのれの正義を貫くために

あひる 正義……じゃあ桃太郎さんは、名取さんのやるべき答えがわかるんですか？ものすごく悩んでいるんです、教えてあげて下さい！

桃太郎 教えることなどできない

あひる それができるんです、お爺さんが声を聞かせることができるようになったんです

桃太郎 そんな話ではない。関わってはいけないんだ。人間達には

あひる どうして……桃太郎さんは、昔、何があつたんですか？

桃太郎 ……

あひる 言いたくないようなことですよ……たぶん

桃太郎 それがわかつて聞いてくるとは。他の奴らは私を恐れているのにな

あひる すみません

桃太郎 謝るのなら初めから聞くな。私にだって感情がある。思い出したいくない過去がある。何もできなかつた悔しさも、もちろんある

桃太郎は去って行く。

暗転

四場

秋祭りの前日。兼好は相変わらず売り子をしている。兼俱が現われて声をかける。

兼俱

そういえば、秋祭りの挨拶はすませたか？商工会、町内会、青年会……わしはもちろん行ったが、よく考えたとお前も今年は何行っておいたほうが……

兼好

今さら何言ってるの？秋祭りは明日だよ。そんなの行ってるに決まってるだろ。お焚きあげのことで消防にも行ってきたよ

兼俱

優秀優秀。早く一人前になってくれよ

兼好

はいはい。あと、展覧会の本、会場を出たって電話あつたから。来たらなおすの手伝ってよ

兼俱

わかつた（去る）

ウサギ

やつと本が帰ってくるのか……長かつたぜ……

雪女

もう少し踊りたかつたな

赤ずき

ウサギ、本が帰ってきたら、本当にもとに戻るんでしょね？

ウサギ

日本の物語の連中が変異したのは、間違いなく本殿の本が持ち出されたせいだ。お前は知らねえが、少なくとも爺はもとに戻るだろうな

赤ずき

爺さえ戻ればいいよ。もう嫌だよクソ爺にお酒つぐの。セクハラもだんだんエスカレートしてるしき。だいたい、金ちゃんがつかりしてないからでしょ！今からでも特訓してクソ爺や

兼俱

つつけてよ

金太郎

無理だよ、あの本見たでしょ？爺さんの左手一本で俺とクマが瀬戸内海まで飛ばされるんだよ。勝てるわけないよ

赤ずき

このデブは寝てるだけだし……起きたらちよつとは役に立つんじゃないの！

寝太郎

起きてますよー（携帯をいじっている）三年引きこもってたのに、突然凄い事できるわけないでしょー

金太郎

何回も言ってますけど、勝負になるのは桃太郎さんくらいですよ。消えちゃいましたけど町に

シンデ

町にいるんじゃないの？

雪女

あんな町のどこがいいんだろ。薄汚くて、みんな暗い顔して。面白いものがあっても、先に気がめいってしまいますわ

ウサギ

どこにいるかは知らねえが、本に書いてある通り、桃を十三個集めたら現われるんだろう

赤ずき

誰が桃持つてるんだって話でしょ！あー面白くない。あいつは何してるの？

栗原はずつと名取が奉納してきた作品に目を通している。

シンデ 名取さんを助けるために研究しているらしいですよ

赤ずき 研究結構、研究結構、どうぞ人間の問題は人間達で片付けて下さい。私達に迷惑かけない

で！

兼好 どうですか？

栗原 改めて読むと…また違って見えますね。「意地悪爺さん対桃太郎」までは名取先生らしさも所々みうけられる。でもそのあとは…直接的な表現というか…怒りです

兼好 怒りですか…何にむけての？

栗原 わかりません…まるで何かにやれと言われているかのような…

兼好 そうですか…。栗原さんは明日、秋祭りに来て頂けますか？

栗原 ええ、もちろんです。名取先生は？

兼好 まだお返事は…来られたらいいのに

栗原 そうですか

兼好 じゃあ、また後ほど

あひる 名取先生…

赤ずき お前、喋んなよ

あひる すみません

赤ずき だから喋んなって。みんな気持ち悪がつてんだよ。素性もわかんないし、クソ爺には媚び売つてたし。全部お前が原因なんだろう？

あひる そんな…

雪女 でもね、あの名取つて人が最初に持つてきた本で、あなたが来たんでしょ？なら疑われてもしょうがなくくない？

あひる …

貧乏神 貧乏！

赤ずき お前にはそいつがお似合いだよ。こつち見るな。向こう向いてろ

あひる はい

名取が現われる。その後ろを意地悪爺さん、婆さんが偉そうに続いてくる。

雪女 うわ、来た！

あひる以外のキャラクターは静かになる。その様子を意地悪爺さんはニタニタと眺めている。

爺さん そうだそうだ、お前らはそうやって静かにしてるのが一番だ。貧乏神はやっぱり、名無しの

ところか…便利だな、お前は。貧乏神ホイホイだ

あひる …

兼俱 これは名取先生、また本をお持ちに？

名取 はい…現実を見ました。現実のひどさが、また一つわかりました

兼俱 わかりました。お預かりします

栗原は名取に一礼すると、兼俱とともに本殿に向かう

一同 …

爺さん おいおいお前ら、勘違いするなよ。俺はもう何も言っちゃあいないよ。あれだけ町がひどいんだ。まともに書いたら、そりゃえげつない話になるわな

雪女 どんな話？

爺さん 道端で笑い話をしていた小学生に因縁をつける話、優先座席で妊婦から席を奪う話、孫とケンカして家を燃やす話

一同 …

爺さん おい、お前踊れ！

シンデ 私？雪女さんじゃなくて？

爺さん そうだ。サンバは飽きた。面白いのを踊れよ

シンデ …社交ダンスでしたら、パートナーがいりますわ

爺さん なら、ウサギ

ウサギ なんて俺が踊るんだよ！

爺さん 暇なんだよ。俺に逆らうのか？

ウサギ …

爺さん お前も変異させてやろうか？餅つきダンスを踊るつてのはどうだ？傑作になるぞ！
ウサギ わかったよ、言う通りにするから勘弁してくれよ

シンデレラとウサギが社交ダンスを踊る。意地悪爺さんは楽しそうに見ている。

婆さん 今日も一人かい？

あひる はい…あ、喋ったらダメなんです

婆さん 何言ってるんだい、そんなこと言ってるからいじめられるんだよ

あひる すみません…

婆さん 爺さんは性格悪くなったねえ。ありやさらに変異してるね

あひる そうなんですか？

婆さん ああ。私の物語を書かせるつて約束も忘れちまつてるしね。一人でどんどん意地悪になつち

やつて…でも心配しなさんな。しよせん意地悪爺さんだ。いつかは成敗されるよ

あひる 私は、そうは思えません

婆さん 子供を見たらわかるよ。桃太郎の話は物まねまでするのに、爺さんが勝つ話は誰も読まない

晴人が現われる。

婆さん 子供に人気のない話なんか、すぐに消えてなくなる。私らは、やられてこそその意地悪なんだ

あひる それが、役目なんですよ

婆さん そうだよ

あひる 私の役目は？…辛い…早く消えたい…

婆さん 元気だしな

意地悪婆さんは、あひるに折り紙の鶴を手渡す。

あひる え？

婆さん つまらないことが頭を回り出したら、折り紙でもして頭を空っぽにするんだよ

意地悪婆さんはあひるに折り紙を手渡す。

あひる ありがとうございます

本殿から帰ってきた栗原が名取のもとに近付く。名取の書いてきた本のコピーを全て持っている。

栗原 名取先生

名取 なんですしょう？

栗原 先生の奉納された作品、コピーして全部読みました。やはり、これはダメです

名取 そうですか

栗原 失礼ながら、先生に何があつたのか調べさせて頂きました。先生は、斉藤ひかりちゃんのためにも、悲しみを乗り越えなければいけません

名取 乗り越えられないからこうなつたんでしょ！その名前を簡単に出さないで下さい！私にとつて…

栗原 なぜ、先生はひかりちゃんにこだわるんですか？

名取 よその子供が一人死んだくらいで、自分の子供じゃなくせに、そう言いたいんですか？

栗原 違います、どうして他のお子さんでなく、ひかりちゃんなのか

名取 理由をつくればいいんですか？私と似ていたから、絵本が好きだったから、そこにあの子が

いたから？わかりませんよ！子供を愛する気持ちに理由なんかないでしょ？

栗原 …

名取 あの子は…あの子は…

栗原 先生、逃げないで下さい。ひかりちゃんだけじゃない、たくさんの子供が、大人が、待つて

いるんです。先生は、夢を作り出す才能をお持ちなんだから

名取 なんですか夢を作り出す才能って！パパパッと奇跡を起こして元気にする？栗原さんはで

きるとお思いですか！

栗原 はい。私が頂いたものをお返しします

栗原は「おおきなはしご」を取り出す。

名取 それは

栗原 『とうとう、おおきなはしごのてっぺんが見えてきました。太陽に近づいてきましたので、まわりが段々と暑くなってきました。ピンちゃんの体は蒸発してどんどん小さくなっていきます。それでもピンちゃんは登り続けました。今までの怖さに比べたらこんなことはたいしたことじゃない、とピンちゃんは思いました』（ページをめくる）

名取 ……

栗原 『とうとう、ピンちゃんの体は全て蒸発しました。おおきなはしごのてっぺんには辿りつけませんでした。地面で蒸発するのも、太陽の近くで蒸発するのも同じようなことでした。（ページをめくる）でもいつもと違って、ピンちゃんはとても穏やかな気持ちになりました』

名取 そののどろが…

栗原 先生が書いた絵本です。先生が一番わかるんじゃないやありませんか

晴人は拝殿に行こうとするが、ふんぎりがつかない。

まー坊 あ、晴人！

突然現われたまー坊に驚き、晴人は逃げようとする。

まー坊 どこ行くんだよ。お参りに来たんだろ？

晴人 え？

まー坊 けんちゃんが早くよくなりますようにって

晴人 そんなことして、早く治ると思ってるのかよ…

まー坊 だって、けんちゃんの怪我が大したことなかったのも、神様のおかげだろ？お母さんが言うてた

晴人 お前、バカだな…そんなの大人が勝手に言ってるだけだ

まー坊 そりゃ僕、晴人みたいに勉強できないもん。じゃあ、お参りやめとく？

晴人 俺は別にしなくてもいいんだけどさ…神様に謝っとけば大人が許してくれるんだよ。だから…

まー坊 ……してやるよ
まー坊 よかった。じゃあ、行こうよ

晴人 ……

まー坊 どうしたの？もしかしてやり方知らないの？

晴人 うるさいな、お前、先に行けよ！

まー坊と晴人は拝殿に向かう。

名取 私は…どうして見えなくなっただけでしょう…あの子達が見ている太陽はどんな色なんですか？あの子達の見ている夢は、私が見た夢は…

栗原 名取先生…

晴人とまー坊が帰ってくる。

晴人 なあ、まー君

まー坊 ん？

晴人 俺、受験が終わったら、引っ越しするんだ

まー坊 知ってるよ

晴人 え？なんで？

まー坊 いい中学に行くんだろ？けんちゃんのお母さんが言ってたよ。だからけんちゃん、晴人と仲良くなるんだって一学期から張り切ってたの

晴人 どうして？

まー坊 時間が無いからだよ。他の奴とはまだ何年もあるけど、晴人は一年しかないだろ？だから早く仲良くならないと間に合わないじゃん

晴人 ……

まー坊 勉強大変だろうけどさ。また時間できたら遊んでよ。早く友達になりたいんだ

晴人 バカ、俺達はもう、親友だろ？

まー坊 親友？

晴人 (恥ずかしくなって) なあ、病院行こうぜ

まー坊 え？子供だけで行っついでいいのかな？

晴人 そりゃルールさえ守るんなら…面会時間とか…とにかく、俺の言う通りにしろよ

まー坊 うん

晴人とまー坊は去って行く。名取は頭を抱える。

名取 戻れない…私はもう、戻れない…

栗原 名取先生！

名取は逃げるように去って行く。

運送屋Aが現われる。

運送A すみませーん、ラピート運輸です。お待たせしました！

ウサギはダンスを終える。

ウサギ ようやくかよ。お前、もともどつたら全員でボコボコだからな

爺さん 甘いな、お前たちは

ウサギ どういう意味だ？

兼俱 どうもありがとうございます

運送A 今から順番に運んでいきますので、よろしくお願いします

兼俱 はいはい

爺さん 『ちよつと待ちな』

運送A はい？

爺さん 貧乏神、来い！

貧乏神 貧乏！

意地悪爺さんによって貧乏神は運送屋Aにくっつけられる。

ウサギ 何するんだ、お前！

運送屋Aは首をかしげながら向かうが、突然つまづく。

兼俱 気をつけて下さいよ

爺さん ははは、運び終わるのにどれだけかかるかね

赤ずき 爺！いい加減にしなよ。どうせやられるんだからおとなしくしとけ！

爺さん ギリギリまで悪あがき。それがこの俺、意地悪爺さんだ

婆さん まったく、爺さんったら…う、うう…

突然、ウサギと意地悪婆さんが苦しみ始める。

ウサギ うわあ、熱い、熱い

雪女 ウサギ！

婆さん 熱い、熱い！

あひる お婆さん！

爺さん おい、どうした？どうしたってんだ！

ウサギ これは…くそ、お前ら…！

ウサギは周りのキャラクター達に何かを伝えようとする。
運送屋Bが駆け込んでくる。

運送B すみません！消防車お願いします！

兼好 どうしました？

運送B 突然トラックから火が出て！早くしないと！

兼俱 私が電話するから、お前はトラックのほうに！消火器はあそこにあるから

現実世界、物語世界がパニックになる。

爺さん 婆さん？婆さん！婆さん消えちまったのか？火が出た…火事？そうか…本が燃えちまったのか…なんでだ。なんでこうなるんだ…貧乏神！

悠々と貧乏神が現われる。

貧乏神 誰に口をきいておる、我は神！不幸は集まった！苦しみよ、憎しみよ、世界に降り注げ！人間どもの思いが我に力を与えたのだ！

爺さん …そうか、この腐った人間達がお前に力を与えたのか…ハハハ、傑作だ…なあ婆さん…婆さん！…くそっ…名取…どこだ、名取、どこに行った！

爺さんはふらふらと名取を探しに行く。

暗転

五場

その日の夜。神社に名取がふらふらと現われる。あひるはすみに隠れて折り紙をしている。その後ろには貧乏神が立っている。

名取 戻れない…戻れない…

後ろから意地悪爺さんがついていく。

爺さん 『終わらせるんだ…終わらせるんだ…』

意地悪爺さんが、突然立ち止まる。

爺さん なんだいお前ら、こんな夜中にお揃いで。どうかしたのか？

雪女 ええ。ちよつとね

雪女を筆頭にキャラクター達が全員現われる。

爺さん 踊りでも踊ってくれんのか？

雪女 いいえ。そんな楽しいお話じゃありませんよ

シンデ 何をしようとしているんですの？

爺さん 終わらせるんだよ。婆さんのいない世界なんて意味がない

赤ずき だからって燃やすのかい？

金太郎 全力で止めますよ

寝太郎 今日は起きてるんだからね

爺さん なんだ、バレてんのかい。誰が気づいた？

雪女 ウサギよ。本殿の本を守れて。お婆さんやウサギはこの先生の本に登場しなかったから消

えてしまった。私達が残っているのは…不本意だけどあの本のおかげ。あれが燃やされたら私達も消えてしまうって

爺さん …はは、ちよつと違うな

雪女 何が違うの？

爺さん 本だけ燃やすなんてちやちなことは言わねえ。この神社ごと、全て燃やしてやる！

雪女 なんですって！

爺さん 終わらせるんだよ。本がなくなっても、次の本が来るかもしれない。でも、この受け皿さえ

なくなれば全てなくすことができるじゃねえか！

赤ずき こいつ狂ってる…爺も消えることになるんだよ

爺さん 当たり前だ、もうこんなの終わりにしたいんだよ、お前らは全員道連れだ！

金太郎 道連れはごめんですよ

爺さん じゃあ、力づくで止めるよ。『名取…』

雪女 いくよ

全員が飛びかかり、意地悪爺さんを止めようとするが、簡単に弾き飛ばされてしまう。

爺さん 邪魔するなよ『名取』

あひる できました！

あひるが意地悪爺さんの目の前に立つが、その瞬間こける。貧乏神が後ろからついてきたのだ。

爺さん なんだお前？

あひる みなさん、すみません、貧乏神さんが見ているので遅くなりました

赤ずき はあ？誰もお前待ってねーし

あひる お爺さん、やめてください

爺さん お前が俺を止めるのか？

あひる 私じゃありません

あひるは折り紙でできた十三個のモモを地面に並べ始める。

雪女 それは、もしかして…桃！

あひる 桃太郎さん、来てください！

赤ずき そんなんで来るわけないだろ

あひる 絶対に来てくれます！お婆さんの思いが詰まった折り紙なんだから！

爺さん …

現代の傭兵のように姿を変えた桃太郎が現れる。

桃太郎 モモが集まるとき、私は現われる

金太郎 桃太郎さん！

シンデ 本当に来ましたわ…

桃太郎 用件を聞こうか

あひる 桃太郎さん！お願いします、お爺さんを止めて下さい！

桃太郎 わかった…引き上げよう

爺さん なんだ、桃太郎？邪魔したら殺すぞ

桃太郎 我々の死とは忘れられること。殺すことなどできない

桃太郎の銃が火を噴く。しかし、意地悪爺さんの体はそれを簡単によける。

爺さん じゃあどうやって止めるんだ？消えない限り、俺は何回でも燃やしに来るぞ。これから何日

も、何年も、何百年も鬼ごっこを続けるのか？それが楽しいのか、え？早く終わらせようぜ。

こんな毎日、早く終わらせようぜ！

桃太郎の銃を再び意地悪爺さんはよける。

桃太郎 私に何を言おうと無駄だ。依頼は遂行する

爺さん そんな姿にされてまで、生きてどうする？お前がこの国に何をされたか、忘れたわけじゃないだろ

桃太郎 ……

あひる 桃太郎さん？？

爺さん おい名無し！桃太郎が今の地位をどうして築いたか知ってるか？教科書に載ったからだ。便利な桃太郎さんは、国に利用されたんだよ！

桃太郎は黙って銃を撃ち続ける。

爺さん それまではただの人気者だった桃太郎が、日本の英雄として絶対的な地位を築くんだ。お前が推し進めた正義はどうなった？軍国主義、戦争、あの戦争は正義なのか？

桃太郎 ……

爺さん 鬼が皇神（すめがみ）に背いたから征伐して皇国を安泰にする、ヤンキー島行ってヤンキーをめつた殺しにする

あひる そんなの桃太郎さんが正義だと思ってるわけじゃない

爺さん 戦争に行く時は人間達がここで万歳、万歳言ってたんだ。それをこいつは笑顔で見送ってたんだよ！

桃太郎 ……私はただ、願いを聞いただけだ。人間達の願いを。生きて帰ってくれと言う願いを！

桃太郎の隙について意地悪爺さんは名取に指令を飛ばす。

爺さん 『名取よ、本殿に行け。行って全てを灰に変えるのだ！』

桃太郎 くそっ！

歩き出した名取を、誰も止めることができない。あひるがつまづきながらも、名取に貧乏神を乗り移らせる。とたんに名取は派手に転倒し、大きな音を立てる。

爺さん 『何やってんだ、早く行けよ』貧乏神邪魔するな！

貧乏神は大きく笑う。

金太郎達が意地悪爺さんに飛びかかる。

爺さん なんだ、お前ら！邪魔だ！

意地悪爺さんが全員をふりほどく。

爺さん ……お前ら、いい加減にしるよ…今回の件で現実世界つてのがよく見えただろ。俺達よりはるかに広い場所を動ける人間ですら、あのさまだ。ただ、目的もなくぶらぶらとして、消える日を待ってる

あひる だから私達が必要なんです

爺さん 意地悪が必要か？現実の意地悪爺は犯罪者だ、極悪人だ。平気で人も殺すんだ。現実恐怖がアクセントなんだ。俺達が出る幕じゃねえ…貧乏神！こっちに来い！

貧乏神 ははは、我に命令するのか、我に命令するのか！

貧乏神は名取から離れ、意地悪爺さんにくつつく。

爺さん 『名取！行くぞ！』

名取が本殿に向かおうとした時、兼俱が現われる。

兼俱 名取さん…何してらっしゃるんですか？

名取 ……！

爺さん くそ…『名取！殴り飛ばせ』

名取 ……

爺さん 『名取！殺してもかまわない！』
兼俱 音がしたもので：この年になると、寝れなくてね。ハハハ

名取はしやがみこむ。

兼俱 名取さん？

名取 怖い：自分が何を考えているのか、怖い：

爺さん 『お前は燃やせばいいんだよ！たいしたことじゃないだろ！』

名取 頭の中で声でするんです。全てを燃やしてしまえって。何もかも消し去るんだって。それしか終わらせる方法がないんだって

兼俱 燃やしにきたんですか？

名取 はい：

兼俱 そうですか。なら、燃やして下さい。持ってきますね

兼俱は冊子を取りに本殿に向かう。

赤ずき ちよつと、何言いだすのよ！兼俱！

シンデ 燃やされたら消えちゃうんですよ！

寝太郎 嫌だよ：目が覚めないのは：

金太郎 爺！止めてくれよ、お願いだ！

爺さん 嫌だね、都合がいいや。(桃太郎の銃弾をさける) おっと。お前はいつまでもしつこいね。自分の体の心配でもしとけよ

桃太郎 私は任務を果たす

爺さん それで何が生まれたんだ？教えてくれよ！帰ってこない人間達を見送って、何が生まれたんだ？戦争が終わってお前は教科書から消された。人間の都合で好き放題変えられて、使い捨てられて、それがもう終わるんだ！喜んで抱きあおうぜ

桃太郎 たとえ次の瞬間に消えようともお前を止めることに全力をつくす

爺さん 消えるんだぞ、今なんて何の意味もないんだぞ

桃太郎 なら、お前が全てを消し去るのも、意味がないことだ

爺さん

桃太郎 何年もの時を生きて、何回も変異して、わかったことがある。国も、正義も、形を変えていく。変異するものに価値がないと言うならそう言えがいい。しかし、過去がなければ現在はない。現在がなければ未来はない

爺さん なんてお前はそんな冷静になれるんだよ！

兼俱が本を持って現れる。その中にはみにくいあひるの子も入っている。

兼俱 どうぞ。名取さんの持って来られた本はこれだけです

名取 ああ：ああ：

兼俱 ここで燃やしてもかまいませんよ

シンデ やめさせて！

爺さん うるさい！『名取、早く燃やせ！燃やすんだ！』

名取 宮司さん

兼俱 なんでしよう？

名取 宮司さんはどうして止めてくれないんですか？おかしいでしょ、こんな夜中に燃やしたいって、私は本殿ごと燃やすつもりだったんですよ。警察を呼ばれてもおかしくないのに

兼俱 本殿は燃えていませんし、この本は名取さんのものです。好きにして下さい。お邪魔でしたら私は向こうにいます

名取 止めてはくれないのですか？

兼俱 止める理由がありません。ただ：

兼俱がみにくいあひるの子を取る。

兼俱 この本だけは、もう一度、しっかりと見てほしいとは思っていました。一番最初に特別供養

された：

あひる ……！

爺さん 『消せ！消してしまえ！もうどうなってもいいだろ！』

名取 嫌です！もう、見たくない：けれど：燃やしたら：二度と会えない：

兼俱 見てあげてください。絵がたくさん書きこまれている。桃太郎、シンデレラ、金太郎：全部

名取さんの絵ですね？どれだけ見ないでおこうとしても、名取さんがお子さんと過ごした事実、絶対に消えないんですよ

名取 ……ごめんね：本当に：ごめん：

名取はみにくいあひるの子を胸に抱いて、涙する。

名取 元気をもらっていたのは、いつも私だった：それなのに私はあなたに、思いを押し付けていただけ：私は、何をしてあげられるの…？

爺さん 『早く燃やせ！』

名取 だめ、だめよ：

爺さん 『なんでだ！ただの紙だろ！』

桃太郎 あきらめる。もうその女は自分の意思で動いている。限界だ

爺さん くそっ：『じゃあ俺の本だけでも燃やしてくれ、俺はこの世界に必要なんだ！』

あひる ……必要ですよ

爺さん はあ？

あひる 雪女さんは、雪山の怖さと美しさ、寝太郎さんは偉業をなすためには時間が必要だと言う事、シンデレラさんは心の豊かさ、みんな伝えてきたんです。子供にでもわかるようにやさしく、形を変えながら。そしてお爺さんは

爺さん やめろ：来るな：

あひる みんなから親しまれる悪役。時代がいくら悪くても、お爺さんは優しさを忘れてない！それでしょ？

爺さん やめろよ、やめてくれ。おかしくなりそうだ！

あひる 怖がらないで下さい

爺さん どけっ！

しかし意地悪爺さんはあひるをどかすことができない

爺さん なんだ、この力は？お前：ただの名なしじゃないのか？

あひるは意地悪爺さんを抱きしめる。

あひる 寂しいだけなんです。あなたは。寂しさが目を曇らせているんです。探して下さい、幸せを、優しさを、喜びを：必ず見つかります。私も、長い間悲しみの底にいました。自分が何者なのかもわからず、誰からも蔑まれ、死んでしまいたいと思つたことも一度や二度じゃありませんでした。でも、最後に：きつと見つかります

爺さん やめてくれ：やめてくれ：お前は、いったい何なんだ？

あひる 私は：白鳥。みにくいあひるではありません
赤ずき 名無し、物語があつたの？

名取 「みにくいと言われ、のけものにされ、すべてに疲れたあひるは、いつそ殺されたら楽だろうと美しい白鳥の群れの中に飛び込みました。しかし、白鳥達はなにも拒絶することなくあひるを迎え入れたのです。ようこそ、新人さん。なんと、みにくいあひるの子は、いつのまにか立派な白鳥になっていたのです」

あひる 自分の可能性に気づかせること、それが私の役目。お爺さん、信じて下さい。あなたの中には、誰よりも優しい心があるんです

意地悪爺さんは叫びながらあひるを振りほどく。

爺さん 止めてくれ！誰か俺を止めてくれ！無視するな！俺はここにいるんだ！いるんだよ！俺だって生きてるんだ、死ぬだけじゃないんだ！誰か相手してくれよ！誰でもいいんだ！俺は怒

りたいわけでも傷つきたいわけでもない：俺はただ、一人が嫌なんだ！

桃太郎の銃が意地悪爺さんを撃ち抜き、意地悪爺さんは倒れる。

赤ずき キヤー！
シンデ 殺したの？
雪女 桃太郎！

あひるは意地悪爺さんを抱きかかえる

あひる ううん、桃太郎さんの銃は殺せない。心を洗い流す銃。名取先生が必要だと思った、夢の銃よ

名取 兼俱さん

じつと座って見守っていた兼俱が立ちあがる。

兼俱 終わりましたか？

名取 終わりました。ひかりと、一年ぶりに向き合いました

兼俱 そうですか？

名取 私：あの子にひどいことを言っちゃったんです。最後にあつた時に。あの子が聞いてきたんです。私、白鳥になれるのかなって：

兼俱 :

名取 もう先は長くないってわかっています。だから：私は、なれるよって嘘をついたんです。それがずっと心にひっかかっています：でも、答えはこの本に書いてたんです

あひる :

名取 これは、みにくいあひるが白鳥になる物語じゃないんですよ。かわいそうだとか、あわれだとか、そんなつまらないことを思っているから、見えなかったんだ

あひる :

名取 あなたは白鳥だよ、って言ってあげればよかったんです。普通の人の何倍も頑張ってきたんだから

兼俱 ええ：

名取 でも、時間はもう巻き戻せない：

兼俱 :

名取 私に、神様みたいな力があつたら：
兼俱 神様だって万能じゃありませんよ

名取 ?

兼俱 天の岩戸の話、御存知ですか？

名取 ええ：アマテラスが引きこもってしまった岩戸をみんなで開けようと苦心するんですね

兼俱 アマテラスといえ、大変な力を持った神様ですよ。その神様ですらひきこもってしまう。それが日本の神様の面白いところですよ

名取 ええ

兼俱 スサノオが暴れなかったら、アマテラスはひきこもらなかった。しかしそうだったら、スサノオが改心して、心穏やかな神様になることもありませんでした。全て必要だったんです。悲しい事も含めて、全て。だから受け入れましょう

名取 子供の死ですら、受け入れるんですか？

兼俱 妻を亡くした時に思いました。どうしてこいつが先に死ななくてはいけなかったのか、私に何が

名取 できるのか。今でも答えはわかりません。でも、その繰り返しで日本は作られてきたんです。

亡くなっていた人々が今を作っているんです。どこかで見ているということが現実にあるかわかりませんが、この世界のどこかにみんないるんです。そう思うと、心が安らぎました

名取 あの子も、いるんですよ：

兼俱 はい。きつといます

名取 宮司さん。お参りの仕方、教えて頂けますか？ちゃんとしたり方、私、知らなくて

兼俱 ええ、もちろんです

名取と兼俱は拝殿に向かう。

爺さん うっ…

あひる お爺さん！

爺さん あ、桃太郎！いてえだろ、年寄りをいたわれよ

桃太郎 すまないな

赤ずき 燃やすってまだ言う？

爺さん ああ？もうどうでもいいや

雪女 じゃあ名取さんに燃やすなって言っ

シンデ そうしないとみんな消えちゃうんです

爺さん はあ？何で俺が

全員 爺！

あひる それとお爺さん、名取さんに伝えてあげて下さい。その子は感謝していたって

爺さん 俺は便利屋かよ

桃太郎 お前達、やめておけ

あひる どうしてですか！

桃太郎 私達は人間と関わってはいけけないんだ。絶対に声の届かない存在だから、私達は人間から全

ての責任を引き受けることができるんだ

あひる …

赤ずき 燃やすなっていうのはいいでしょ？

桃太郎 だからやめておけ。消え去るのなら、仕方のないことだ

赤ずき そっか…

金太郎 仕方がないことですか

一瞬の沈黙。名取が本殿から帰ってくる。

赤ずき って言うわけないだろ！みんな、桃太郎をおさえつける！爺、早く言えよ！

桃太郎を赤ずきんや金太郎が取り押さえる。意地悪爺さんが参拝から帰ってきた名取に声を

かける。

爺さん 『名取よ、お焚きあげなどやめて、全て本殿の中に入れてままにしておけ』

名取 兼俱さん、この本は燃やさずにと本殿に飾っておいて頂けませんか？

物語世界に歓声があがる。桃太郎はため息をつく。

兼俱 ええ、すっからかんになってしまいましたから。大歓迎です

名取 ありがとうございます

兼俱 他のお焚きあげさせて頂いてよろしいですか？

名取 はい。よろしくお願いします

一同 え？

爺さん おい、名取！名取！

しかし名取は何の反応もみせない。

雪女 もしかして聞こえてないの？

金太郎 桃太郎さんの銃で、能力までなくなったんだ

物語世界はパニックに陥る。その声は当然名取には聞こえない。

名取 明日、お焚きあげは見届けます。よろしく願います。

次の日、名取は本が燃えて煙が天に昇る様子を眺めている。
暗転

秋祭りが終わってしばらくたった。冬が近づいている。本殿にあった本は、みにくいあひるの子を除いて燃やされてしまった。あひるは一人になってしまい、ポツンと座っている。兼好もほうきを抱えて一人座っている。貧乏神が現われる。

貧乏神 貧乏！

あひる 貧乏神さん！どうして！

貧乏神 我を呼んだか？

あひる 呼んでません

貧乏神 そうか。しかしお前のそばは居心地がいい！

あひる 貧乏神さんはもしかして、本当に神様なんですか？

貧乏神 何を今さら言っておるのだ

あひる いえ、もう本殿には私の本しかないのにいらっしやるから

貧乏神 神に本など必要ない！必要なのは思いだ！人間どもの思いが我に力を与える。我がいるから貧乏なのではない！貧乏な心が我を呼び覚ますのだ！

兼俱が現われる。外出から帰って来たのだ。

兼俱 ひまそうだな

兼好 江戸の大火で焼け残ったはずの古本がトラックの不審火で全焼。そりや御利益も疑われる

よ

兼俱 でも、一億円入るじゃないか

兼好 そうだけど。栗原さんによると、来週の週刊誌に事故は偽装されたのか？って記事がのるらしい

兼俱 はっはっは。世間は恐ろしいな

兼好 ああ

兼俱 一億円で何する？

兼好 ……

兼俱 まだ落ち込んでいるのか？

兼好 そりやね

兼俱 一億円で喜ばないとはお前らしくないな

兼好 俺だって金より大切なものがあるって知ってるよ

兼俱 大切なものって何だ？

兼好 そりや、御先祖様が守ってきた歴史とかなんとか…もう、わかってるだろう？

兼俱 はは、まあ終わったことは仕方がない

兼好 父さんはさ、ああ、これは息子として聞いているんだけど、昔っから何があっても動じない

兼俱 っていうか、怒らないっていうか。俺が大学やめた時も、サラリーマンやめた時も、それこそ

兼好 展覧会に本を運び出した時も、なんで止めようとしなの？

兼俱 止めても仕方ないだろ。それでどうなるかなんてわからないんだから

兼好 父さんくらいの器がないと、神職はつとまらないのかな…

女A、B、Cが参拝に来る。

女C 神主さん！これ、スタンプカード！

兼好 はいはい。十八個。あと二個ですね

女A 私達、初めて佳作をとれたんです！

兼好 凄いいじゃないですか、おめでとうございます！

女B この神社のおかげですよ！絵馬を書いた帰り道にアイデアがパッとひらめいて、さっと書きあげたのが、佳作！…今までは時間かけて書いても全然ひっかからなかったのにね！

兼好 よかったですね。御利益あると思ったら宣伝しといて下さいよ

女C もちろんです！

女A 本が燃えちゃったんですよね
兼好 ええ、まあ……
女B そういうこともありますよ、頑張ってください
兼好 ありがとうございます

女A、Bは拝殿で祈ると去って行く。

兼好 何を頑張れと言うんだか……あー、ダメダメ、そんなこと言っちゃあ。俺、神職としてやって
いけんのかな？
兼俱 あのお嬢さん達が来られたのは、お前のおかけだろ。他にも何人ものかたが、お前が作った
ご縁でここを訪れている。お前は神職として正しい仕事をしたということだ

女Cが駆け込んでくる。

女C ちよつと！
兼俱 はい？

女C ここに彼氏とお参りに来たんだけどさ。妹が手術だとか言つて。でも妹なんていなかったの
よ！貯金まきあげられて！どうして神様は教えてくれなかったの！文句言つてきてもいい？
兼俱 どうぞどうぞ、言つてきて下さい。あちらでどうぞ
女C 天罰が落ちますように……お願ひしてもいい？
兼俱 どうぞどうぞ

女Cは拝殿に向かう。

兼好 なあ、父さん？
兼俱 宮司。なんだ？
兼好 神様ってなんなんだろうね？
兼俱 何をいまさら言つてるんだ？
兼好 いや、俺は父さん……宮司さんの意見を聞きたいんだ
兼俱 御先祖様全て、この国そのもの、という回答はどうだ？人だけじゃなく、心の中も、出来事
もすべて、神様

兼好 火事も神さま？前向きに受け入れろつてこと？無理だよ
兼俱 あの古本が一億円に化けたんだぞ？古本がなくなつたのが嫌なら、本屋で絵本を買つて詰
めておいたらいいだろ
兼好 そんな本に価値ないよ

兼俱 今の本も三百年経てば立派な古本だ
兼好 そうだけどさ……(名取が現われる) 名取さん！
兼俱 お待ちしていましたよ
名取 できました
兼俱 どうしましょう？これもずっと置かせてもらつてよろしいですか？
名取 はい、お願いします
兼俱 みにくいあひるの子の隣に置いてあげて
兼好 わかつてるよ
名取 すみません、無理言います
兼俱 いえいえ。おい

本を持つていこうとする兼好に向かつて、兼俱はカバンから大きなビンを取り出す。

兼俱 これも奉納してくれ
兼好 何これ？
兼俱 こないだのトラックの中から取り出してもらつた。灰だ
兼好 ハハハ、なるほどね

兼好は本殿に向かう。

兼俱 みんな揃ってから読みましょうか。さて…

兼俱はカバンからさらに箱を取り出す。名取に箱の中身を見せる。

兼俱 さっきの余りです。実は昔からこれをやってみたくてね。枯れ木に花を咲かせましょう

兼俱は灰をあたりにまき散らす。

兼俱 枯れ木に花を咲かせましょう

兼俱が灰をまくたびに、物語の登場人物達が現われる。桃太郎、ウサギ、雪女、寝太郎、金太郎、シンデレラ、赤ずきん。全員もとの姿に戻っている。

あひる みなさん！

シンデ おはよー。あれ？私達、消えちゃったんじゃないやありません？

あひる 灰が奉納されたんですよ

赤ずき そうなんだー。あれ、雪女さん、サンバは踊らないの？

雪女 だまれ（笑う）

ウサギ いやー熱かったな。カチカチ山以来の衝撃だ。赤ずきんもシンデレラももとに戻ったか。はは、めでたしめでたしだ

兼俱 名取さんも一緒にどうですか？

名取 枯れ木に花を咲かせましょう！

あひる あれ？お爺さんがいない

ウサギ どうしてだ？

婆さん 私はいるけど…

桃太郎 あの爺さんが簡単に消えるわけないだろう（見つける）

こそこそと意地悪爺さんが現われる。

爺さん けっ

あひる お爺さん！

爺さん なんだよ、誰が起こしたんだよ、俺は寝たままでもいいのに

一同 爺！

意地悪爺さんのもとに全員がかけよる。

貧乏神 なんだ、居心地が悪くなったぞ。何が楽しいんだ、お前らは！ハハハハハ、この世の終わりで！世界が終わるぞ！

名取 はなさかじいさんって、素晴らしいお話ですよ。滅びきった最後の灰が、花を咲かせるんですから

兼俱 そうですね

名取 私も見習わなくちゃ。ひかりの物語がみんなの心に花を咲かせますように…

兼俱 おっ、来たようですね

けん坊、まー坊、晴人が現われる。けん坊はまだ傷が残っている様子。

兼俱 けん坊、もう体は大丈夫か？

けん坊 うん

晴人 おい、神様に挨拶していけよ

けん坊 なんだよ晴人、偉そうに。神社のことなら俺のほう知ってるぜ

子供達は拝殿に行って参拝してくる。女Dはすっかりした顔で帰って行く。栗原、多賀城が現われる。

栗原 名取先生！

名取 あ、栗原さん…先日は失礼なことを言つてすみませんでした

栗原 いいんですよ…ありがとうございます、ありがとうございます！

名取 どうしたんですか

栗原 嬉しいんですよ！内容を聞いただけで涙がこぼれました！これこそ、先生が書くべきだった本です！これで完全復帰ですね！

名取 ちよつと待つてください…これから何を書いて行くのか決まったわけじゃありません。まだまだ時間がかかります

栗原 そうですか…

名取 でも私はもう迷いません。とにかく進みます。ひかりの声を伝えながら。ひかりがいなければ生まれなかった物語を書いていきます

子供達が帰ってくる。

兼俱 じゃあ、今日は私じゃなくて、絵本作家の名取文絵さんが読んでくれます

まー坊 先生、読むこともできるんだ

晴人 当たり前だろ、失礼なこと言うなよ

名取は本を開き、読み始める。

名取 改めまして、みなさん、おはようございます。宮司さんみたいに上手に読めないかもしれないけど、ごめんね。『小さな白鳥』という絵本です。『みなさん、元気に毎日学校に行っていますか？学校には多くのお友達がいると思います、中には病気で学校に通えないお友達もいるんです。この本はそういうお友達の一人、斉藤ひかりちゃんのことを書いています。斉藤ひかりちゃんは、一九九六年十月二十六日、咲花市立病院で産まれました。三千グラムの元気な赤ちゃんは、産まれる前から男の子でも、女の子でもひかりという名前が決まられていました。産まれてきたばかりの小さなひかりちゃんを、お母さん、お父さん、お爺ちゃん、お婆ちゃんとかわりばんこに抱っこしていきます。全員が笑顔です。本当に幸せな、ひかりちゃんの人生の始まりの日でした…』

物語の世界に、赤ちゃんの産声が聞こえる。

赤ずき 何、この音？ねえ、なにになに？

金太郎 鳴き声？

雪女 赤ん坊の産声よ

ウサギ こつちの世界だ

あひる ということは

桃太郎 新しい仲間が産まれたんだ

了